

○ 上告理由

辯護人篤晴興上告趣意書第一點原判決ハ罪トナラサル事實ニ對シ不當不法ニ法律ヲ適用シタル違法又ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アリ即チ遞信省令第六十五號遞信省徽章通信日附印及郵便切手類模造取締規則第二條所謂「通信日附印ニ紛ハシキ印影ヲ描出スヘキモノ又ハ之ニ紛ハシキ印影ヲ有スルモノハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之レヲ製造販賣頒布又ハ使用スルコトヲ得ス」トアル規定ノ趣旨ハ要スルニ或ル印影又ハ之ヲ描出スヘキモノカ一見シテ郵便電信電話官署ニ於テ使用スル日附印ニ紛ハシキモノヲ罰スル趣旨ニシテ紛ハシカラサルモノハ本規定ノ罰スル所以ニアラス而シテ本條所謂紛ハシトハ類似ノ觀念ヲ超越シ將ニ同一ノ城ニ達セントスル程度ニアル即チ類似ト同一トノ中間ニ位スヘキ觀念ナリ從テ類似ノ觀念ニ屬スヘキ事實ニ對シテハ之ヲ罰スルノ法意ニアラス即チ本條ニ類似ノ文言ヲ用フルコトナク特ニ紛ハシキナル語ヲ表示シアル所以實ニ茲ニ存ス從テ類似セル事實又ハ物體アリトスルモ紛ハシキモノナラサル以上本罰則ニ觸ルルノ所以ナシ即チ之ヲ證據ニ徵スルニ同人ノ公判廷ニ於ケル供述ニ於テモ何レノ陳述ヲ查閱スルモ紛ハシキモノナルコトヲ自認スル趣旨ノ供述ナシ然ルニ原判決ハ被告人ノ公判廷ニ於ケル供述檢察廷ニ於ケル供述ヲ有罪ノ證據トシテ舉示シアリ之レニ依リ之レヲ見ルニ原判決ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アリ故ニ原判決ハ破毀ヲ免カレサルモノト信ス

○ 判決理由

明治四十二年遞信省令第六十五號遞信省徽章通信日附印及郵便切手類模造取締規則第二條ニ所謂郵便電信官署ニ於テ使用スル通信日附印ニ紛ハシキ印影トハ其ノ圖樣形體文字等ニ於テ外觀上郵便電信官署ニ於テ使用スル通信日附印ト相酷似シ一見世人ニ該官署ニ於テ使用スル通信日附印ト混同誤認セラレ易キ虞アル印影ヲ指スモノトス本件押收ニ係ル印刷物中ノ印影ヲ閱スルニ圓形ノ中央ニ二條ノ橫線ヲ描キ其ノ中間ニ算用數字ヲ以テ 1556 ト横書シ其ノ橫線ノ外側ニ楯ノ齒形ノ模様ヲ配シ其ノ上部ニ吳トアリテ其ノ下部ニハ偶々大衆樂ナル文字アルモ其ノ外觀上明治四十二年十二月二十九日遞信省

告示第千三百八十六號ニ於テ定ムル通信官署ニ於テ通信事務ニ使用スル日附印ト相酷似シ一見世人ニ郵便電信官署ニ於テ使用スル通信日附印ト混同誤認セラレ易キ虞アル印影ト認メ得ヘキヲ以テ原審カ該印影ヲ有スル電報送達紙類似ノ印刷物ヲ以テ前記取締規則第二條ノ適用ヲ受クヘキモノト判定シタルハ相當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ擬律錯誤アルモノニ非ス又原判決ノ證據說示ヲ見ルニ被告人ノ第二審公廷ニ於ケル自認ハ被告人カ紛ハシキモノナルコトヲ自認シタリトノ趣旨ニ引用シタルモノニ非スシテ紛ハシキモノナリトノ點ニ關スル被告人ノ辯解ヲ除外シテ其ノ他ノ部分ノ自認ノミヲ證據ニ引用シアルノミナラス判示日附印カ郵便電信官署ニ於テ使用スル通信日附印ト相酷似シ紛ハシキモノナルコトハ被告人ニ對スル檢察聽取書中ノ自分ノ配布シタ宣傳ビラニハ郵便局ノ日附印ニ類似ノ印影カ印刷シアリシ旨ノ供述記載ト押收ニ係ル電報送達紙類似ノ印刷物中ノ日附印トヲ對照シ認定シタルモノナルヲ以テ原判決ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ

○監守盜ノ件(大審院明治廿九年第二一〇號棄却)

集配人服
務規則第
一條

【被告人】 小島太郎

【第一審】 福岡地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判決要旨

一郵便局ノ集配人ハ其ノ局ノ雇員ニシテ局長ノ雇人ニアラス

【參照】 集配人ハ郵便電信局又ハ郵便局又ハ電信局ニ附屬スルモノトス但三等郵便局
ノ集配人ヲ雇入レ又ハ其雇ヲ解クコトハ集配受負人之ヲナスモノトス(集配人服務規則
第一條第一項)

○事實

明治二十九年二月四日長崎控訴院ニ於テ右太郎ニ對スル監守盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消シ被告太郎ヲ輕懲役
七年ニ處ス押收品ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用金二圓七十錢ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告
ハ上告ヲ爲シ原院檢事長大島貞敏ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ本院檢事及辯護士
ノ辯明ヲ聽キ審理スル處

○理由

上告趣意書第一點ハ縷々陳辯スル所アルモ其要旨ハ一件記録中一モ被告ノ犯罪ヲ證スルモノナク讒ニ證人松田源次郎佐々
木義一等ノ證言アルモ其證言ハ不實ニシテ採用スヘキモノニアラス然ルニ原院カ證據ニ反シ架空ニ有罪ノ認定ヲ下シタリ
ハ不法ナリト云フニ在レトモ○裁判官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實認定ノ當否ヲ論争スルモノニシテ上告適法ノ原因ト
ナラス」第二點ハ本件ノ爲替貯金ハ被告ノ保管ニ係リ若シ水火盜難其他疎虞懈怠ニヨリ損失ヲ生セシメタルトキハ被告ニ
於テ之ヲ賠償セサルヘカラサル責メアルモノナレハ躬ラ之レヲ竊取スルノ理由ナント云フニ在レトモ○賠償ノ義務アルモ

郵便局ノ集配人ノ資格

ノハ必スシモ其物件ヲ竊取セサルモノト云フヘカラサルハ勿論ナレハ本論旨モ畢竟裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノトス」第三點ハ三等郵便電信局ノ集配人ナル者ハ同局長ノ雇人ニシテ一般官署ノ小使ト異ナルコトハ明治廿年迄逓信省公達第百號集配人服務規則ニ依テ明カナレハ集配人松田源次郎佐々木義一ハ局長タル被告人ノ雇人ナリ殊ニ右兩名ハ被告ト同居ノ者ニシテ本事件ニ付キ證人タル資格ナキモノナルニモ拘ラス原院ニ於テ右兩名カ證人トシテ取調ヘラレタル豫審調書ヲ採用シテ證據ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○右服務規則ニ依ルモ總テ集配人ハ其局ノ雇員ニシテ決シテ局長其者一私人ノ雇人ト爲シタルニアラサルコト判明ナリ而シテ又源次郎義一ノ兩名ハ被告人ト其住居ヲ異ニスルモノナルコトハ訴訟記録ニ明カニシテ同居人ト認ムヘキ事實ナシ」第四點ハ佐々木圓二ハ本件ニ付最モ嫌疑アルモノナルヲ以テ被告人利益ノ爲メ證人トシテ召喚アランコトヲ辯護人ヨリ請求ヲ爲シタルニ原院ニ於テ故ナク其ノ請求ヲ棄却シタルハ越權ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ檢スルニ辯護人ノ請求スル證人ノ喚問ハ必要ト否決シタリト言渡シタル旨記載アリテ故ナク棄却シタルニアラストス因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○竊盜等ノ件(大審院明治三十年第五一八號棄却)

【被告人】 鈴木 木民 七 【辯護人】 高木益太郎

【第一審】 新潟地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判決要旨

一 三等郵便局ハ官署ニシテ其局長ハ官吏ナリ

【參照】 郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局二等郵便電信局三等郵便局ニ等郵便電信局ニ等郵便局ニ等電信局三等郵便電信局長及三等郵便局長ハ列任トス上官ノ指揮監督ヲ受ケ局務ヲ掌理ス(官制第十條)

官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ(刑法第二〇三條)

官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第二〇六條)

○事實

右竊盜郵便印紙再貼用官印盜用官文書偽造官私文書毀棄被告事件ニ付明治三十年五月二十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

○理由

上告ノ趣旨ハ原院ハ本件ニ關シ檢事カ未タ何等ノ陳述ヲ爲サ、ルニ被告ヲ訊問審理セラレタルハ刑事訴訟法第二百五十八條第二百八十八條ニ違反スル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○控訴ノ裁判ニ付テハ其控訴者ノ檢事ナルト被告ナルトニ

三等郵便局長ノ資格

郵便及電信局官制
第二條第
十條第
舊刑法第
二百三條
第一項第
二項及第
二百六條

從ヒ先ツ其控訴ノ趣旨ヲ聽キ被告ヲ訊問スヘキモノナレハ其控訴ニシテ被告ナルトキハ其訊問ニ先タチ檢事カ被告事件ヲ陳述スルノ要ナシ而シテ刑事訴訟法第二百五十八條ノ規定ハ第一審ニ關スル規定ニシテ控訴ノ裁判ニ適用シ得ラルヘキモノヲ適用スヘシトノ律意ナリ然ラハ則原院ニ於テ檢事カ被告事件ノ陳述ナキニ被告ニ訊問シタルハ相當ノ措置ニシテ決シテ違法ト云フヘキモノニアラス

同辯明書ノ第一ハ原院ハ被告カ果シテ官文書ヲ毀棄シタルト認ムヘキ證據ナキニ濫リニ刑法第二百三條第二項ヲ適用シタルハ事實ノ認定ヲ濫用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原承審官ノ職權ニ專屬スルモノナレハ其ノ認定ニ對スル論難ハ適法上告ノ理由ナシ」其第二ハ官文書偽造ノ罪ハ必ラス記録者ノ資格ヲ僞リタル事實ナクハ其犯罪ヲ組織スルコトナシ今マ本按被告ニ在リテハ其記録者ノ資格ヲ僞リタルコトナシ何トナレハ自分ハ即チ三條郵便局ニ職ヲ奉スルノ雇員ニシテ回答文書等ヲ作成スルハ日常ノ勤務ナリトス既ニ日常ノ勤務ナリトセハ文書ヲ作成スルコト其權内ニ屬スルヲ以テ記録者タル資格ハ雇員タルト同時ニ當然伴フヘキノ資格ナリトス然ルヲ原院ニ於テ被告ノ所爲ヲ刑法第二百三條第一項ニ問擬セラレシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○右ノ論旨ハ雇員タルノ資格ト一個人タルノ資格トヲ混交セシノ謬見ニ坐スルノミ其ノ作成スル處ノ文書ニシテ良シ同一人ノ作成ニ係ルモノトスルモ雇員タルノ資格ヲ以テセハ官文書タルノ効ヲ有シ一個人タルノ資格ヲ以テセハ其偽造タルヲ免ル、ヲ得ス故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ刑法第二百三條第一項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス」其第三ハ三等郵便局ナルモノハ一ノ官署ノ業務ヲ受負スル公署ニシテ官署ニアラス隨テ其局長ナルモノハ公吏ニ屬シテ官吏ニ非サルコトハ明哲ナリ故ニ本按被告カ偽造セリト云フ文書ハ之ヲ公文書トイフヘクシテ官文書ト云フヘキモノニアラス又被告カ盜用セリト云フ印形ハ是レ官印ニアラスシテ公署ノ印ナリ然ルヲ原院ニ於テ被告ノ所爲ヲ刑法第二百三條第一項同法第二百六條ニ問擬セラレシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○三等郵便局ノ官署タルコト及ヒ其局ノ官吏タルコトハ明治二十六年勅令第五百五十二號郵便及電信局官制第二條及第十條ニ明載セラルル所ノモノニシテ從テ其文書ノ官文書タルコト其印章ノ官印タルコトハ言フ俟タサルナリ

辯護人高木益太郎辯明書ノ趣旨ハ照會書及小包送票毀棄ノ所爲ハ郵便條例第二百三十四條ニ該當スヘキモノニシテ普通刑法ニ據リ處分スヘキモノニアラス故ニ原判決カ刑法第二百三條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤アル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ノ認ムル所ニ據レハ右照會書及送票ハ上田郵便電信局ヨリ三條郵便電信局ヘ宛テ郵送シ受信局ニ於テ之ヲ受取リタルモノナレハ其文書自體ハ既ニ郵便物ト云フヲ得ス故ニ之ヲ毀棄シタル所爲ハ刑法第二百三條第二項ニ問擬スヘキモノニシテ郵便條例ノ適否如何ヲ問フノ要ナシ然ルカ故ニ原院カ同條ヲ適用シタルハ相當ナリ
右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年六月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○官印偽造ノ件(大審院明治三十一年第九七九號棄却)

舊刑法第百九十五條

【被告人】 和氣禮朔
【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判決要旨

一郵便電信局ノ印章ヲ偽造スルニ當リ電信ノ二字ヲ遺脱スルモ官印偽造罪ノ構成ヲ妨ケス

【參照】 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑法第百九十五條)

郵便局印ノ偽造

○事實

右官印偽造被告事件ニ付明治三十一年九月二十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

○理由

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣旨ハ原判決ハ被告ニ於テ備中國總社郵便局ナル官印ヲ偽造セリト認定セラレタレトモ總社郵便局ハ明治三十年四月一日ヨリ總社郵便電信局ト改稱シ爾後亦總社郵便局ト稱スルモノナシ抑廢廳又ハ改稱ノ後偽造シタル職印及局印ト雖モ廢廳又ハ改稱以前ノ日附ヲ以テ行使シタル場合ニハ偽造罪ノ成立スルコト論ヲ俟タサル所ナルモ本件ハ原院ノ認定ニ依ルモ郵便局改稱後ノ事實ニ係リ且明治三十一年二月二十一日即チ改稱後ノ日附ヲ用ヒタルモノナレハ官印偽造ノ罪ヲ構成セサルコトハ現ニ戶長役場ノ廢印ニ係ル小區印ヲ用ヒ公證文書ヲ偽造シ廢印以後ノ年月日ヲ用ヒタルモノハ罪トナラストノ判決例ニ照スモ明白ナルニ之ニ對シ原裁判力刑法第九十五條ヲ適用セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○被告ノ目的ハ原裁判ノ認メタル事實ニ依レハ總社郵便局ノ印ヲ偽造シ郵便貯金通帳ニ押用シテ以テ之レヲ抵當ト爲シ他ヨリ金圓ヲ騙取センコトヲ企テ該通帳ニ金圓預入記入ヲ偽書シ總社郵便局ナル偽造印ヲ押捺シテ偽造ヲ完成シタルモノナレハ假令總社郵便局ハ其以前ニ於テ郵便電信局ト改稱セラレタルモ被告ノ偽造シタル印類ハ單ニ其電信ノ二文字ヲ脱シタルニ止リ目的トスル所ハ總社郵便電信局印ノ偽造ニ在レハ偶々電信ノ二文字ヲ脱シタレハトテ官印偽造罪ノ構成ヲ妨ケス乃チ原判決力本件ニ對シ官印偽造罪ヲ問擬シタルハ相當ニシテ論告ハ其理由ナシ
以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十一年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

民法第八條第二
六八條第二
七二條
電氣事業取締
規則第七條

○損害賠償ノ件(大審院明治三十二年第九十一號)

明治三十二年十二月七日第一民事部判決

【上告人】 東京電燈株式會社

【右法律上代理人】 木村正幹

【訴訟代理人】 長島鷺太郎

【被上告人】 生形政吉

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

右當事者間ノ損害賠償事件ニ付キ東京控訴院カ明治三十二年六月十二日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

○判決要旨

電線架設ノ如キ危險ノ工事ヲ施設スル者ハ其危險豫防ノ設備充分ナラサルカ爲メニ損害ヲ蒙リタル者ニ對シ賠償ノ責ニ任セサルヲ得ス

○判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

上告ノ趣旨ハ上告會社ノ事業ハ一ニ電氣事業取締規則ニ依リ支配セラルヘキモノトス而シテ該規則第七十二條ハ變壓器ノ内外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲メ適當ノ豫防方法ヲ設クヘシト規定ス抑モ低

電線架設者ノ責任

(裁判所構成法
第百十五條)

一 三等郵便局ノ通信事務員ハ明治二十九年十月二日逓信省公達郵便及電信局備採用規則ノ規定ニ從ヒ三等郵便局長ニ於テ之ヲ任命シ監督官ノ認可ヲ經タル上官吏ノ管掌スヘキ通信事務ヲ取扱フモノトス(判旨第四點)

【參照】 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ(刑法第二百五條第一項)

官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百三條第一項)

官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第二百八十九條)

○事實

右監守盜官私文書偽造行使事件ノ控訴ニ付明治三十五年五月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書ノ要旨ハ被告ハ増田誠太郎ヨリ假ニ郵便發着及ヒ配達等ノ事務取扱ヲ依頼セラレタルコトアルモ爲替事務ノコトハ毫モ管掌シタルコトナシ然ルニ増田誠太郎ノ虛偽ノ證言ヲ採用シ刑法第二百五條ニ依リ被告ヲ重懲役ニ處シタルハ事實ノ理由ト法律ノ理由ト齟齬シタル失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ長野縣下伊那郡波合郵便局通信事務員ヲ奉職シ郵便ノ發着爲替貯金事務ニ從事中數度其取扱ニ係ル小爲替券在中ノ信書ヲ竊取シ自己ノ管掌シタル爲替拂渡帳ニ偽造ノ記入ヲ爲シ同局ニ備ヘ置キタルモノニシテ原院ハ其事實ニ對シ刑法第二百八十九條第一項第二百五條第一項第二百五條第一項第百條ヲ適用シ被告ヲ重懲役ニ處シタルモノナレハ原判決ハ毫モ其理由ニ於テ齟齬シタルコトナシ

他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ批難アルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス

第一上告趣意擴張書ノ要旨ハ被告ハ單ニ其管掌ニ係ル物品ヲ竊取シタルモノナレハ單純ナル監守盜ニシテ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル事實ナケレハ原院カ第一審判決ヲ取消スニハ此點ニ付該判決ノ不當ナル所以ヲ指摘セサルヘカサルニ原院カ第一審判決ニ刑法第百條及ヒ第百二條ヲ適用セサルノ理由ヲ以テ該判決ヲ取消シタルハ不當ナルノミナラス原院カ公判開延ノ際パイプ、ハンカチーフ等ノ如キ外國語ヲ以テ審問ヲ爲シタルハ裁判所構成法第百十五條ニ違背シタル裁判ニシテ刑事訴訟法第二百六十八條第二項ニ當ルヘキ法則ヲ適用セサル不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ第一審判決ニ一ノ瑕瑾アルコトヲ指摘シ該判決ヲ取消シタル以上ハ其他ノ瑕瑾ヲ指摘セサルモ不當ナリト云フヲ得ス又パイプ、ハンカチーフナル名詞ハ今日我邦ニ於テ一般ニ行ハルル常用語ナルノミナララ開延ノ際一ノ審問ヲ爲スニ總テ外國語ヲ以テスルハ法ノ禁スル所ナリト雖モ其審問中本件ニ於ケルカ如ク贓物ヲ指示スル爲メ偶々外國語ノ名詞ヲ一二雜ヘタリトスルモ之ヲ以テ裁判所構成法第百十五條ニ違背シタルト云フヲ得サルヲ以テ本論旨ハ相立タス

第二上告趣意擴張書ノ要旨ハ第一第七第九乃至第十三第十五第二十二ノ犯罪ニ付テハ被告ハ單ニ監守盜ヲ爲シタルノミニシテ官文書ヲ偽造行使シタルコトナキニ原院カ刑法第二百五條ヲ適用シ重懲役ニ處シタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第九號ニ違反シタル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ第一第七第九乃至第十三第十五第二十二ノ事實ニ付テハ被告ハ監守盜ノ外ニ其管掌ニ係ル爲替拂渡帳ニ偽造ノ記入ヲ爲シ波合郵便局ニ備置キタルモノナレハ原院カ刑法第二百八十九條第二百五條第百條等ヲ適用シテ被告ヲ重懲役ニ處シタルハ違法ニアラス

第三上告趣意擴張書ハ上告趣意書ノ趣旨ヲ敷衍スルニ過キササルヲ以テ重ネテ説明セス

上告趣意擴張申書ノ要旨第一ハ原院カ第一第七第九乃至第十三第十五條第二十二ノ犯罪ニ對シ刑法第二百五條第一項ヲ適用處斷シタルハ不當ノ裁判ナリ何トナレハ被告ハ波合郵便局ノ臨時雇ニシテ法定ノ通信事務員ニアラス通信事務員ハ適法ニ監督局長ノ認可ヲ得且ツ同局長ノ辭令ヲ受ケ一定ノ俸金ヲ受クルヲ要スルモノナルニ被告ハ監督局長ノ認可ヲ得

ス且ツ同局長ノ辭令ヲ受ケス又一一定ノ俸金ヲ受ケス只タ法定ノ通信事務員選定迄臨時雇入レラレタルモノナレハ其身分ヲ有セス又其責任ヲ有スルモノニアラス故ニ郵便爲替帳簿ヲ管掌スル能ハサルハ勿論之ヲ保管スルコトモ能ハサルモノナリ強テ被告カ管掌シタルモノトスルモ誰レカ被告ニ其權利ヲ與ヘシモノソ局長ト雖モ隨意ニ其權利ヲ他人ニ與ヘ得ルモノニアラス故ニ局長ノ豫審廷ニ於ケル證言ハ管掌セシメタリトノ意味ナラサルコトハ自ラ明瞭ナリ蓋シ何人ト雖モ郵便法規ノ規定ニ依ルニアラサレハ管掌者トナル能ハサルモノナリ從テ被告ハ絕對的管掌者タラサルモノトス然ルニ原院カ局長ノ證言ノ眞意ヲ了解セス刑法第二百五條ノ刑ヲ科シタルハ不法ノ裁判ナリ又原院ノ認メタルカ如ク被告ニ管掌ノ權利アリトスルモ被告ハ何レノ所ニ於テ其權利ヲ得タルモノナルカ局長ト雖モ擅ニ其權利ヲ與ヘ得ルモノニアラス且ツ若年無責任ノ臨時雇ニ重大ナル管掌ノ權利ヲ與ヘ得ルモノニアラサルニ依テ見ルモ被告カ管掌者ニアラサルコトハ明瞭ナリトス如之本件ニ付テハ被告ハ總テ局長立會ノ上其命ニ從ヒ帳簿記載事務ヲ整理シタルモノニシテ其不在中ト雖モ管掌者ハ獨リ局長ナルニ被告ヲ管掌者トシテ刑法第二百五條ヲ適用處斷シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ長野縣下伊那郡波合郵便局通信事務員ヲ奉職シ郵便物ノ發着爲替金事務ニ從事中第一第七第九乃至第十三第十五第二十二ニ掲ケタルカ如ク其管掌ニ係ル爲替拂渡帳ニ爲替金ヲ夫々拂渡シタル旨ノ偽造ノ記入ヲ爲シ之レヲ同局ニ備ヘ置キシモノナリトス而シテ三等郵便局ノ通信事務員ハ明治二十九年十月二日逓信省公達郵便及電信局備採用規則ノ規定ニ從ヒ三等郵便局長ニ於テ之レヲ任命シ監督官ノ認可ヲ經タル上官吏ノ管掌スヘキ通信事務ヲ取承フモノナレハ被告カ郵便爲替帳簿ヲ管掌スルノ職責アルハ固ヨリ當然ノコトナルヲ以テ原院カ前掲被告ノ所爲ニ對シ刑法第二百五條第一項ヲ適用處斷シタルハ不法ニアラス他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ論難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

第二ハ第一審判決ニハ刑法第二百八十九條第二項ヲ適用シアリタルニ拘ハラス原院カ該條項ヲ適用セサルヲ以テ見レハ第一審判決ハ此點ニ於テモ違法タルコト明カナリ然ルニ原院カ第一審判決ヲ取消スニ當リ刑法第百條及第百二條ヲ適用セサルノミノ瑾瑕アルコトヲ指摘シ前掲違法ノ廉アルコトヲ指摘セサルハ裁判ニ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリ假ニ一步ヲ讓

リ原院ニ於テモ第一審判決ノ如ク刑法第二百八十九條第二項ヲ適用シタルモノナリトセハ其明示ナキハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院カ第一審判決ニ一ノ瑕瑾アルコトヲ指摘シ該判決ヲ取消シタル以上ハ其他ノ瑕瑾ヲ指摘セサルモノ不法ニアラサルノミナラス原判決ニ依レハ本件官文書偽造行使罪ハ何レモ被告カ監守シタル小爲替券在中ノ信書ヲ窃取シタルモノニシテ監守盜ヲ爲スニ因テ官文書ヲ偽造行使シタルモノニアラス從テ原院ハ其事實ニ對シ刑法第二百八十九條第二項ヲ適用セサルモノナレハ原院カ該條項ノ明示ナキハ相當ニシテ不法ニアラス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年七月七日於大審院第二刑事部公延檢事小宮三保松立會宣告ス

○監守盜ノ件(大審院明治三十五年(九)第一九二〇號破毀)

舊刑法
第三百六
七條第十
六條

【被告人】 佐藤市之助

【第一審】 宇都宮地方裁判所

【第二審】 東京控訴院

○判決要旨

一 三等郵便電信局ノ通信事務員ハ明治二十九年十月二日逓信省公達郵便及ヒ電

通信事務員ノ小爲替證書ノ窃取

信局雇採用規則ノ規定ニ從ヒ三等郵便局長ニ於テ雇ヲ命シ通信事務ニ從事セシムルモノナレハ官制上所謂高等官判任官ノ資格ナキハ勿論之ニ準シ又ハ其待遇ヲ受クルモノニ非ス從テ該雇員ハ官吏ニ非ス

【參照】人ノ所有物ヲ窃取シタル者ハ窃盜ノ罪ト爲シ二年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
(刑法第三百六十六條)

禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス
(刑法第七十條第一項)

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
(刑法第三百七十六條)

○事實

右監守盜被告事件ニ付明治三十五年十月三日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理由

上告趣意書ハ被告ハ通信事務員ニ非ラサルヲ通信事務員トシテ刑法第二百八十九條ヲ適用處斷シタルハ失當ナリ假ニ通信事務員ナリトスルモ明治三十三年法律第五十四號郵便法第五十一條ニ該當スヘキモノナルニ監守盜ヲ以テ處罰シタルハ不當ナリト云ヒ辯護人擴張書ノ要ハ刑法第二百八十九條ノ官吏トハ行政上官吏任用ノ公式ニ依リ任用シタル官吏ヲ云フモ

ノニシテ三等郵便局通信事務員ノ如キハ之ヲ官吏ナリトスルコト能ハサルトノ趣旨ヲ以テ縷々上告趣意書ヲ敷衍スルニ在リ○依テ按スルニ官吏トハ官制上高等官判任官タル身分ヲ有スル者及ヒ法律規則ヲ以テ之ニ準シ又ハ其待遇ヲ受クル者ノミヲ云フ其以外ノ者ハ假令職務トシテ行政事務ヲ管掌スルモ官吏ニアラサルコトハ當院ノ判例ニ依テ認メラルル所ナリ而シテ被告ハ通信事務員トシテ三等郵便局黑磯郵便局ニ奉職ノ身分ナルコトハ原院ノ認ムル所ニシテ三等郵便電信局ノ通信事務員ハ明治二十九生十月二日遞信省公達郵便及ヒ電信局雇採用規則ノ規定ニ從ヒ三等郵便局長ニ於テ雇ヲ命シ通信事務ニ從事セシムルモノナレハ官制上所謂高等官判任官ノ資格ナキハ勿論之ニ準シ又ハ其待遇ヲ受クルモノニアラサルヲ以テ該雇員ノ官吏ニアラサルコトハ明白ナリトス然ルニ原判決ニ依レハ被告ハ通信事務員トシテ黑磯郵便局ニ奉職中其職務上保管ニ係ル金三圓ノ小爲替證書封入ノ通常郵便物ヲ窃取シタリトノ事實ニシテ即チ前説明ノ如ク假令被告カ職務上保管ニ係ル物件ヲ窃取スルモ被告ハ雇員ニシテ官吏ノ資格ナキモノナルニモ拘ハラス尙ホ官吏自ラ監守スル物件ヲ窃取シタルモノト爲シ刑法第二百八十九條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ判決ニシテ本論旨ハ破毀ノ原由アルモノトス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

右

佐藤市之助

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ明治三十三年法律第五十四號郵便法第五十一條ニ郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ窃取シタルトキハ刑法ノ例ニ照シ一等ヲ加フトアルニ依リ刑法第三百六十六條ニ該ルヲ以テ同法第三百七十六條ニ依リ監視ヲ付スヘク押收品ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ差出人ニ還付シ公訴裁判費用ハ同法第二百一第條一項ニ依リ被告人ノ負擔スヘキモノトス
被告市之助ヲ重禁錮二年ニ處シ監視六月ニ付ス
押收品ハ差出人ニ還付ス

公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トス

明治三十五年十二月八日於大審院第二刑事部公廷檢事與官正治立會宣告ス

舊刑法
第二百三
條

○窃盜等ノ件(大審院明治三十五年(レ)第一八九五號 明治三十六年一月十三日宣告 一部破毀)

【被告人】 山川 善十

【第一審】 山形地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判決要旨

一 通信事務員ハ雇員ニシテ官吏ニ非ス

【參照】官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百三條 第一項)

○事實

右窃盜等被告事件ニ付明治三十五年九月二十三日宮控城訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理由

上告趣意書ハ自分カ本件ノ行爲ヲ爲シタリトノコトハ一件記録中毫モ其證據ナキニ拘ハラヌ原院カ有罪ノ判決ヲ與ヘラレ

タルハ證據ニ關スル法則ニ違背シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○是唯原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ
取捨ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

辯明書ヲ要スルニ第一ハ山形郵便電信局長加藤慎一郎ノ始末書ハ虛偽ノコトノミ記載シアリトノ事「第二ハ價額表記郵便
物ノ點ニ付キ原院ノ認定シタル所ハ事實ニ相違アリトノ事」第三ハ爲替券在中ノ信書紛失ノ日時ハ原院ノ認定事實ニ相違
ストノ事「第四ハ爲替券中ニ記名調印セルハ被告ノ行爲ナリト認メタルモ被告ハ決シテ記名調印等ヲ爲サストノ事」第五
ハ本件ニ付テハ當時宿直長タル通信書記色部長憲ヲ第一着ニ取調ヘサルニ此必要ナル證人ヲ取調ヘスシテ實務ニ詳カナラ
サル證人ノミヲ取調ヘ以テ判決ヲ爲シタルハ不當ナリトノ事ヲ縷々陳述スルニ在レトモ○孰モ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ
認定又ハ證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

追辯明書趣旨ハ被告ハ山形郵便電信局通信事務員タリシ間ニ於テ監守ニ係ル物件ヲ窃取シタルモノトシテ重罪ノ刑ヲ言渡
サレタルモ通信事務員ハ官吏ニアラサルヲ以テ原判決ハ擬律ニ錯誤アル裁判ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ官吏トハ官
制上高等官判任官タル身分ヲ有スル者及法律規則ヲ以テ之ニ準シ又ハ其待遇ヲ受クル者ノミヲ云フ其以外ノ者ハ假令職務
トシテ行政事務ヲ管掌スルモ官吏ニアラサルコトハ當院ノ判例ニ依テ認メラルル所ナリ而シテ被告ハ通信事務員トシテ山
形郵便電信局ニ奉職ノ身分ナルコトハ原院ノ認ムル所ニシテ通信事務員ハ明治二十九年十月二日遞信省公達郵便及電信局
雇採用規則ノ規定ニ從ヒ局長ニ於テ雇ヲ命シ通信事務ニ從ハシムルニ過キサルモノナレハ官制上所謂高等官判任官ノ資格
ナキハ勿論之ニ準シ又ハ其待遇ヲ受クルモノニアラサルヲ以テ該雇員ノ官吏ニアラサルコト明白ナリトス然ルニ原判決ニ
於テ被告ノ通信事務員トシテ山形郵便電信局ニ奉職中監守ニ係ル郵便物ヲ窃取シタル事實ヲ認メナカラ官吏自ラ監守ス
ル物件ヲ窃取シタルモノト爲シ刑法第二百八十九條第一項ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ判決ニシテ破毀ヲ免カレサルモ
ノトス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決擬律ノ部ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ其第一乃至第七ノ所爲中信書又ハ爲替券竊取ノ所爲ハ孰モ明治三十三年法律第五十四號郵便法第五十一條ニ郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法ノ例ニ照シ一等ヲ加フトアルニ依リ刑法第三百六十六條ニ該ルヲ以テ同法第七十條ニ從ヒ一等ヲ加ヘ尙同法第三百七十六條ヲ適用スヘク第一及第二ノ所爲中鈴木辰之助鈴木彦吉名義ノ受取書偽造行使ノ所爲ハ孰モ刑法第二百十條一項第二百十二條ニ第八ノ所爲ハ刑法第二百三條ニ該當スル處數罪俱發ニ付刑法第一百條ニ從ヒ一ノ重キ第八ノ所爲ニ從ヒ被告ヲ輕懲役六年ニ處シ押收ノ爲替券中偽造變造ニ係ル部分ハ之ヲ沒收シ其他ノ押收品ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ負擔トス
明治三十六年一月十三日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

○監守盜官文書偽造行使官印盜用私書偽造行使ノ件

(大審院明治三十五年(九)第二三六四號破毀
明治三十六年二月十六日宣告破毀)

【被告人】 松尾善彌 【辯護人】 江木 衷

【第一審】 青森地方裁判所 【第二審】 函館控訴院

舊刑法
第二百三
條第一項

○判決要旨

一 明治二十一年六月遞信省公達第三百三十一號ニ依リ三等郵便電信局長ニ於テ疾病其他ノ事故ニ依リ雇員ヲシテ局務ヲ代理處辨セシムルトキト雖モ其雇員ハ局長ト同一ニ官吏ノ待遇ヲ受クルモノニ非ス從テ此場合ト雖モ其身分ハ純然タル一ノ雇員ナリトス

【參照】官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百三條一項)

官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第二百六條)

○事實

右監守盜官文書偽造行使官印盜用私書偽造行使被告事件ニ付明治三十五年十一月十八日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ本院檢事總長野崎啓造ハ附帶上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書ノ第一郵便局所ニ備付アル郵便物及爲替證書等ニ押捺セル日附印ハ郵便物等受付タル年月日及時刻ヲ證明スルタメニ使用スル一ノ記號ニシ刑法ニ所謂官印ニアラス然ルニ原裁判所ニ官印盜用ノ條項ヲ適用シ處斷シタルハ擬律ノ錯誤アル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○官署ノ用ニ供スル印類ナル以上ハ即チ官印ナルヲ以テ本件郵便電信局ノ用ニ供スル日附印盜用ノ所爲ニ對シ官印盜用ノ所爲ニ對シ官印盜用ノ條項ヲ適用シタルハ不當ニアラス○第二豫審ニテ尋問セシ證人丸尾傳郎外一名ヲ更ニ呼出喚問ヲ請求シタルニ排斥シタルハ法律ニ違背シタル不當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○證據調ノ申請ヲ許容スルト否トハ事實裁判所ノ職權ニ存スルヲ以テ之ニ對スル不服ハ上告ノ理由トナラス○第三小澤三太郎木

雇員ノ身分

浪字三郎宛書留郵便物ハ明治三十四年八月七日午前三時頃ニ蟹田郵便電信局ニ到着シタルニ付被告ニ於テ其當時帳簿ニ記入シ「テール」ノ上ニ揚ケ置キタルノミニテ寢ニ就キ其後ノ取扱ハ關知セス然ルニ右書留郵便物ヲ最終迄取扱シタル者發覺シタル爲メ取調方申請セシニ採用セス被告ヲ最終迄ノ取扱者トシテ處斷シタルハ事實ノ認定ヲ誤ル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○前段ハ證據調ノ不服ナルヲ以テ第二ニ對シテ與ヘタル説明ニ依リ其理由ヲ了解スヘク後段ハ全ク事實認定ノ批難ニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス」第四證人三浦正忠ノ證言ニ檢第十七號ノ印類ハ明治三十四年十一月二十三日ニ被告ノ保管シ居ル印箱ノ引出シヨリ發見云々申立居ルモ被告カ同年十一月十九日蟹田郵便電信局事務員ヲ辭スルト同時ニ印箱等ハ同局長ニ引繼ヲ了シ保管ノ責任ナキモノニシテ證人ノ偽證ヲ申立居ルコト明瞭ナルニモ不拘原裁判所ニ於テ右證言ヲ斷罪ノ證據ノ一部トシタルハ不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○是亦全ク原承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ニ對シ批難ヲ試ムルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス」辯護人江木衷上告趣意擴張書ハ第一點原判決ハ犯罪ノ事實トシテ被告ハ郵便電信事務員奉職中郵便爲替證書五枚在中ノ郵便物一通ヲ窃取シタルモノト表示スレトモ被告ヲ郵便爲替證書五通ヲ窃取シタルモノトセラル、カ將タ郵便物一通ヲ窃盜シタリトセラルルカ兩歧ニ涉リテ其何レナルカヲ知ルコト能ハサルハ判決ニ犯罪ノ事實ヲ明示セサルノ不法アリ何トナレハ爲替證書ノ窃取トハ法律上其性質其刑ヲ異ニシ苟モ郵便事務ニ從事スル者ハ其官吏タルト官吏ナラサルトヲ問ハス郵便法第五十一條ヲ適用スヘキモノナルニ原判決ハ此法條ヲ適用セサルヲ見レハ郵便物ヲ窃取シタルニアラサルガ如クナルモ尙郵便物一通ヲ窃取シテ記載シタルハ結局犯罪事實ノ明示ヲ缺クノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ被告善彌ハ云々金高五十圓ノ郵便爲替證書五枚在中ノ云々書留郵便物一通ヲ窃取シタリトアリテ郵便物窃取ノ事實ヲ説示シタルコト明カナレハ所論ノ如キ不法ナン尙ホ郵便法第五十一條ノ適用ニ付テハ本院檢事ノ附帶上告ニ對スル後文ノ説明ニ依リ理解スヘシ」同第二點原判決ハ窃取ノ點ニ付テハ被告カ八月下旬郵便電信局内ニ於テ窃取ノ行爲アリタルコトヲ明記スルモ八月二十二日即チ八月下旬ニ於テ被告ノ犯シタリトセル擅ニ受取人ノ名ヲ用ヒタル爲替證書ノ偽造局ノ拂渡日附印ノ盜用等ニ付キ犯罪ノ場所ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レト

モ○原判決ヲ見ルニ何レモ其前文ノ同局内ニ於テ云々ノ文詞ヲ襲キ同局内ニ有合セノ印ヲ押捺シ又ハ同局金庫ヨリ取出シタル上云云證書本文ノ傍ニ自己保管セル同局拂渡日付印ヲ捺捺シ云々トアリテ爲替證書ノ偽造及日付印盜用モ郵便物窃取ト共ニ同局即チ蟹田郵便電信局内ニ於テセシコトヲ示シタルヤ明カナレハ此論難ハ謂レナシ」同第三點原院ハ本件ヲ數罪トシ刑法第百條ヲ適用セラレタリ而シテ其數罪中第一審判決ニ「第四官文書偽造行使ノ各所爲ハ刑法第二百五條第二二三條」ヲ適用ストアル罪ニ付第二審ハ第二百五條ヲ適用ヲ廢棄シ更ニ第二百六條ヲ適用セラレタレトモ是レ數罪中ノ一ニ付キ被告ノ不利益ニ原判決ヲ變更シタルノ不法アリト云フニ在レトモ○不利益ノ變更トハ判決主文ノ刑重キニ變更スルヲ云ブモノニシテ法條ノ適用ニ付第一審ト異ナルモノアリトスルモ不利益ノ變更ニ非ス而シテ原判決ハ第一審判決主文ノ刑ヲアラサル者ト雖モ法律若クハ命令ニ於テ官吏ノ職務ヲ代理スヘキコトヲ特ニ規定セル場合ハ法律上ノ關係ニ於テハ其被代理者ト同一ノ資格アルモノト爲シ總テ官吏ヲ以テ論スヘキハ當然ノ事ト思考セリ若如此特定ノ場合ト雖モ尙非官吏ト爲ス時ハ國家公權ノ行使ニ種々ノ障礙ヲ來タシ遂ニ法律命令ノ執行ヲ爲ス能ハサルノ結果ヲ生スルヤ必然ニシテ是レ法制上往々代理ノ場合ヲ特定シタル所以ナリ然ルニ本案原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告善彌ハ三等郵便電信局ノ通信事務員ヲ奉職シ同局長代理トシテ局務一切ヲ擔任取扱中爲替券在中ノ郵便物ヲ窃取シ官ノ文書ヲ偽造行使シタル所爲ニ對シ非官吏トシテ刑法第三百六十六條同第二百三條ヲ當行處斷シタリ蓋シ右ハ通信事務員ハ雇員ニシテ官吏ノ身分資格ヲ有セスト本院ノ判例ニ從ヒタルモノナリ然レトモ明治二十一年六月遞信省公達第三百三十一號三等郵便局長服務規約第六條三等郵便電信局長ハ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ局務ヲ處辯シ能ハサルトキ代理セシムヘキ雇員ヲ豫定シ一等局ニ屆置クヘシトノ規定ニ依リ被告善彌ハ成規ノ通り屆濟ノ局長代理ナルコトハ公知ノ事實ニ係ルヲ以テ局長ト同シク官吏ト爲シ郵便物ノ窃取ハ刑法第二百八十九條官文書偽造行使ハ同第二百五條ヲ擬スヘキモノナルニ非官吏トシテ前述ノ如キ法條ヲ當行シタルハ擬律ノ錯誤ナリト思料スト云フニ在レトモ○明治二十一年六月遞信省公達第三百三十一號ハ唯三等郵便局長ニ於テ疾病其他ノ事

故ニ依リ局務ヲ處辯シ能ハサルトキ代理セシムヘキ雇員ヲ豫定シ一等局ニ届ケ置クヘシトノ規定ニ外ナラスシテ其代理者ハ見ル能ハサルハ勿論假令局長代理者タルコトハ公知ノ事實ナルニモセヨ代理者タルカ爲メ身分ノ待遇ヲモ被代理者ト同一ナリト斷定スヘキモノニアラス即チ被告善彌ハ局長代理員トシテ豫定セラレ便宜上局務ヲ處辯シタルニ過キス身分ハ純然タル一ノ雇員ニ異ナラサルナリ原判決カ被告ヲ非官吏トシテ處斷シタルハ違法ニアラス」同第二點假リニ原判決ノ如ク被告善彌ヲ非官吏トスレハ其官印盗用ニ關シテハ刑法第百九十七條一項ニ依ルヘキニ却テ同條第二項ヲ以テ論シタルハ頗ル論理ノ一貫ヲ缺キタル嫌アリ何トナレハ同條第二項ノ監守者トアルハ監守盜ノ場合ト同シク官吏職務上ノ監守ヲ意味スルモノナルコトハ更ニ疑ヲ容レヌト云フニ在リ○按スルニ刑法第百九十七條第二項ノ監守者トハ其前項御璽官印等ノ監守者タルハ勿論ナルヲ以テ官吏職務上ノ監守ヲ云フモノナルコト上告所論ノ如シ然ルニ原判決ハ本件被告ヲ官吏ニ非スト認メタルニ拘ラス同條同項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリトス」同第三點尙又非官吏ニシテ郵便事務ニ従事スルモノ郵便物窃取ノ場合ハ郵便法第五十一條ニ依ルヘキハ論ヲ俟タス然ルニ原判決ノ擬律之ニ出テス普通ノ窃盜ヲ以テ論シタリ要スルニ何レノ點ニ依ルモ原判決ハ破毀ヲ免カレサルヘシト云フニ在リ○按スルニ本件郵便物窃取ノ犯罪ハ郵便法施行以後ニ係ルテ以テ郵便法第五十一條ヲ適用處斷スヘキモノナルニ原判決玆ニ出テス單ニ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用シタルハ是亦上告所論ノ如ク不法ニシテ破毀ヲ免カレヌ

右ノ理由ナルヲ以テ被告ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ之ヲ棄却シ附帶上告ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

松尾善彌

原判決ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照ラスニ郵便物窃取ノ所爲ハ郵便法第五十一條刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ配達證及同臺紙偽造行使ノ所爲ハ各同法第二百三條第一項ニ同偽造文書ニ日附印盗用ノ所爲ハ同法第百九十七條第一項第百九十五項ニ該リ官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ盗用シタルモノニ付同法第二百六條ニ依リ重キ官印盗用ノ所爲ニ

從ヒ配達證臺紙集配人私印ヲ盗用シタル所爲ハ同法第二百八條第二項第一項第二百十二條ニ該當シ爲替證書五枚ニ木津宇三郎ノ私書偽造行使ノ所爲ハ各同法第二百十條第一項第二百十二條ニ該リ同證書五枚ニ蟹田局ノ拂渡日附印ヲ盗用シタル所爲ハ同法第百九十七條第一項第百九十五條ニ同證書五枚ニ右日附印ヲ盗捺シテ眞正ニ爲替金ヲ拂渡シタル如ク裝ヒ同局ニ備付ケ置キタル所爲ハ各同法第二百三條第一項ニ該リ官文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ盗用シタルニ付同法第二百六條ニ從ヒ官印盗用ヲ重シトシ爲替拂渡帳及爲替貯金出納簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ各同法第二百三條第一項ニ該當ス數罪俱發ニ付同法第百條ニ依リ一ノ重キ爲替證書二日附印ヲ盗捺シタル所爲ニ從ヒ被告善彌ヲ輕懲役八年ニ處ス

他ハ原判決ノ通り

明治三十六年二月十六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與官正治立會宣告ス

○監守盜官印盗用官文書偽造行使等ノ件

(大審院明治三十七年(九)第一〇二號破毀)

【被告人】 和田英太郎 【辯護人】 高木益太郎 江木 哀 毛利文實 小久江美代吉

【第一審】 函館地方裁判所 【第二審】 函館控訴院

○判決要旨

一 告發調書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ作成スヘキ書類ナリトス故ニ該調書ヲ作成スル官吏ハ其每葉ニ契印セラルヘカラス(判旨第一點)

通信事務員ノ任命

- 一 三等郵便局ノ通信事務員ハ明治二十九年十月逓信省公達郵便及電信局雇採用規則ノ規定ニ從ヒ三等郵便局ニ於テ命スヘキ同局ノ雇員ニシテ一個人タル局長其者ノ雇員ニ非ス(判旨第二點)
- 一 檢事カ公判ニ於テ被告事件ヲ陳述シタル事跡ナキトキハ其公判ニ於ケル被告ノ供述ハ全然無効タルヲ免レス(判旨第三點)
- 一 裁判所カ被告事件ニ付キ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ在リテハ縱令同裁判所判事ニ於テ最初豫審ニ着手シタリトスルモ刑事訴訟法第二十七條ノ規定ニ該當セス(判旨第四點)

○事實

右監守盜官印盜用官文書偽造行使私印盜用被告事件ニ付明治三十七年四月六日函館控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎辯明書第一ハ司法警察官ノ告發調書ハ刑事訴訟法第五十三條第五十一條ニヨリ作成スルモノナリ從テ刑事訴訟法第二十條ノ法式ヲ履踐セサルトキハ其書類ノ効ナキモノトス翻テ警部渡邊喜惣治ノ作成セル小野寺佐助告發調書ヲ見ルニ記録第十丁第十一丁ト接續セル部分ニ該警部ノ爲シタル契印ナキヲ以テ(口述告發者タル小野寺佐助ノ契印アルモノ文書ノ每葉ニ契印スヘキ法則ハ其文書ヲ作成スル官吏ノ契印ヲ要ストノ意義ニシテ口述告發ヲ爲シタル者ノ契印ハ刑事訴訟法第二十條ニ所謂契印タルノ効ナキヤ勿論ナリ)刑事訴訟法第二十條ニヨリ該調書ハ無効ナルニモ拘ハラス原院判決ハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルノ不法アリ(二十九年四月六號同年二月十日判決參照)ト云ヒ辯護人江木衷毛利文質上告趣意擴張書第八ハ刑事訴訟法第五十三條ニ依リ司法警察官ノ作成スヘキ告發調書ハ同法第二十條ノ法式ヲ履ムニアラサレハ其書類ノ効ナキコト論フ俟タス而シテ警部渡邊喜惣治ノ作成セル小野寺佐助ノ告發調書ヲ閱スルニ刑事訴訟法第二十條

ニ背キ作成者タル司法警察官ノ契印ヲ缺ク(記録第十丁第十一丁トノ間)無効ノ書類ナルニ拘ハラス斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ刑事訴訟法第五十三條第一項ニハ「何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得」トアリ而シテ同法第五十一條ニハ「告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シトアルヲ以テ告發ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論口述ヲ以テ告發ヲ爲シタルトキハ之ヲ受ケタル官吏ハ告發調書ヲ作成スルコトヲ要シ且ツ該調書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作成スヘキ書類ナルヲ以テ同法第二十條第一項ノ規定ニ依リ作成スル官吏ニ於テ其每葉ニ契印スルコトヲ要スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ警部渡邊喜惣治ノ作成シタル小野寺佐助ノ告發調書ニハ記録第十丁第十一丁トノ間ニ同警部ノ契印ナク右ハ無効ノ書類ナルニ拘ハラス原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ即モ不法ニシテ上告ハ其理由アリ

辯護人高木益太郎辯明書第二ハ三等郵便局ニ在勤セル通信事務員ナルモノハ官吏ニアラサルハ勿論國家機關トシテ雇ハルノモノニアラスシテ個人トシテ三等郵便局長其人ニ雇傭セラル、モノナリ換言セハ通信事務員ハ國家ト雇傭契約ノ下ニ立ツモノニアラスシテ三等郵便局長某ノ雇員ナルコトハ恰カモ執達吏代理カ個人タル執達吏ノ雇員タルト軒輊ナシ翻テ證人阿部庄五郎ノ豫審調書ヲ見ルニ其六問ノ答ニ「明治三十三年通信事務員トナリ目下モ在勤シ居ルナリ」トノ記載アリ由之觀之證人阿部庄五郎ハ豫告和田英太郎ノ雇員ナルコト明白ナリ從テ證人資格ヲ欠缺セルモノト云ハサルヘカラスモモ拘ハラス豫審判事ハ宣誓ノ上證言セシメタリ而シテ原判決ハ此違法ノ證人訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルノ不法アル以上ハ破毀サルヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ○三等郵便局ノ通信事務員ハ明治二十九年十月二日逓信省公達郵便及電信局雇採用規則ノ規定ニ從ヒ三等郵便局長ニ於テ命スヘキ同局ノ雇員ニシテ一個人タル局長其者ノ雇員ニハアラス故ニ豫審判事カ通信事務員タル阿部庄五郎ヲ三等郵便局長タル被告ノ犯罪事件ニ付證人トシテ訊問シタルハ違法ニアラアルヲ以

テ原院カ其訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニアラス
 辯護人高木益太郎小久江美代吉辯明書第三ハ物刑事訴訟法ニ於テハ口頭審理主義ヲ採用セルヲ以テ公訴ヲ提起スルニハ起
 訴狀ヲ提出スルノミヲ以テ足レリトセス檢事ハ公判ニ於テ被告事件ヲ陳述スルコトヲ必要トシ且ツ公判ノ起頭ニ於テ之ヲ
 陳述スルヲ以テ普通ノ順序トスルカ故ニ第一審公判ノ際檢事ヨリ被告事件ニ付キ何等ノ陳述ナキニ拘ラス事件ノ審理ニ着
 手シタルハハ口頭審理ノ原則ニ反シタルモノナルコトハ御院第一刑事部明治三十六年(れ)第二千二百八十九號明治三十
 七年二月五日言渡ノ判決ニ徴シ明瞭ナリ而シテ原判決證據説明ノ部ニ明治三十五年四月十六日第一審廷ニ於ケル被告小
 野寺佐助ノ供述ヲ掲ケアレトモ同日公判ノ際ニハ檢事ヨリ被告事件ノ陳述アリタル事跡ナク又前回公判開廷ヲ證明スヘキ
 書類即チ同年四月十一日開廷ノ公判始末書(即日整頓)ニハ契印ヲ缺キタル事跡アリ(記録七百八十枚ト七百八十一枚ト
 ノ間)テ同始末書ハ無効ノ書類タルヲ免レス故ニ此書類ニヨリ檢事カ被告事件ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ確認スルヲ得ス左
 スレハ第一審裁判所ハ檢事ヨリ適法ニ被告事件ノ陳述ヲ聽カサルニ拘ハラス事件ノ審理ニ着手シタルハ口頭審理ノ定則ニ
 違反シ從テ佐助ノ供述ハ無効タルヘキモノナレハ其供述ヲ證據ニ採用シタル原裁判ハ採證ノ法則ニ違反セリト云フニ在リ
 ○依テ按スルニ我刑事訴訟法ニ於テハ口頭審理主義ヲ採用スルヲ以テ檢事カ公訴ヲ提起スルニハ起訴狀ヲ提出スルヲ以テ
 足レリトセス檢事カ公判ニ於テ被告事件ヲ陳述スルヲ必要トスルコトハ本院判例ノ已ニ認ムル所ナリ然ルニ本件被告事件
 ニ付檢事カ爲シタル陳述ヲ錄取セル明治三十五年四月十一日附ノ第一審公判始末書ニハ記録第七百八十枚ト第七百八十一
 枚トノ間ニ之ヲ作成シタル裁判所書記ノ契印ヲ缺キ無効ニ屬スルヲ以テ右檢事ノ陳述ハ其效ナク又同月十六日ノ公判ニ於
 テモ檢事カ被告事件ヲ陳述シタル事跡ハ更ニ之ナキヲ以テ同月十六日ノ第一審公判ハ口頭一審理ノ定則ニ違反シタル不法
 アルモノニシテ其公判ニ於テ爲シタル被告佐助ノ供述ハ無効タルヲ免レサルモノトス然ルニ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シ
 タルハ則チ不法ニシテ上告ハ此點ニ於テモ亦理由アルモノトス
 其四ハ本件被告ニ對シ函館地方裁判所檢事ノ豫審請求ハ明治三十四年五月二十日ニシテ根室地方裁判所檢事正ノ同應豫審

判事ニ對スル豫審請求書モ同年五月二十日ナリ然レトモ函館地方裁判所豫審判事ノ和田英太郎ニ對スル勾留狀發布ハ同年
 五月二十日午後一時二十分ニシテ根室地方裁判所豫審判事カ電報ヲ以テ勾留狀發布ヲ函館地方裁判所豫審判事ニ囑託セラ
 レタルハ同年五月二十日午後一時四分ナレハ根室地方裁判所ノ方カ函館地方裁判所ヨリモ六分間前キナルコト明ナレハ
 根室地方裁判所ノ豫審着手カ六分間先キニシテ之ニ後レテ豫審ニ着手シタル函館地方裁判所ハ事件ニ付テ管轄權ヲ有セザ
 ルモノナリ然ルニ原院カ之ヲ觀過シタルハ不法ナリト云ヒ辯護人江木衷毛利文質上告趣意擴張書第三ハ本件ニ於ケル函
 館地方裁判所檢事ノ豫審請求ハ明治三十四年五月二十日午後一時二十分ニシテ根室地方裁判所ノ豫審判事ノ勾留狀ヲ發シ
 之ヲ函館地方裁判所ニ囑託シタルハ同年同月同日午後一時四分ナルコトハ管轄ニ關スル原院判決ニ於テ明白ナリ又函館
 地方裁判所豫審判事カ已ニ同年同月二十一日以來豫審ニ着手シ之ヲ進行シツツアリシハ一件記録ノ明示スル所ナリ然ルニ
 函館地方裁判所ハ已ニ着手セル豫審ニ付管轄違ノ決定ヲ與ヘシテ其後一件記録ヲ根室地方裁判所ニ送付シ根室地方裁判
 所豫審判事ハ明治三十四年六月二十六日ヲ以テ本件ハ該地方裁判所管轄ニアラストノ決定ヲ與ヘタリ依之觀之函館地方裁
 判所豫審判事カ一旦着手セル事件ニ付管轄ニアラストノ決定ヲ與ヘス漫然根室地方判所ニ事件ヲ送付シタルハ不法ナリ何
 トナレハ若シ函館地方裁判所豫審判事ニシテ適法ニ非管轄ノ決定ヲ與ヘ而シテ根室地方裁判所豫審判事モ亦非管轄ノ決定
 ヲ與フルトキハ刑事訴訟法第三十一條ニ從ヒ管轄指定ノ手續ヲ履行セサル可ラサルニ至ルヘシ故ニ後日即チ三十七年三月
 十六日ニ至リ他ノ理由ニヨリ函館地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事實ヲ發見シ得タリトスルモ起訴ノ手續ニ於テ一大不法ア
 ルモノナルコト論ヲ俟タサルヘシト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ査スルニ函館地方裁判所豫審判事カ根室地方裁判所豫審
 判事ニ事件ヲ送付シタル事跡ナク又訴訟記録ニ依レハ根室地方裁判所ハ本件ニ付更ニ管轄權ヲ有セサル事實ニシテ已ニ
 管轄違ノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ假令同裁判所豫審判事カ最初豫審ニ着手シタリトスルモ刑事訴訟法第二十七條ニ所謂
 數分ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ最初豫審ニ着手シタル裁判所ナリト云フヲ得サルヲ以テ右論旨ハ何レモ上告ノ理由
 ナシ

前示ノ如ク辯護人高木益太郎辯明書ノ第一及ヒ辯護人江木衷外一名上告趣意擴張書第八ノ論旨並ニ辯護人高木益太郎外一名辯明書第三ノ論旨ニヨリ原判決ノ全部ヲ破毀スルノ理由アルヲ以テ前記説明以外ノ論旨ニ對シテハ逐一説明ヲ與フルコトナク刑事訴訟法第二百八十六條ニヨリ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス
檢事小宮三保松干與明治三十七年六月十日大審院第一刑事部

○所有權確認並占有回收要求ノ件 (大審院明治廿七年(裁)第六百三十三號判決)

【上告人】 中西貫之助 訴訟代理人 伊藤和三郎 秋山常吉

【被告上告人】 遞信省 右代表者 京都郵便局長 竹下康之

【第一審】 京都地方裁判所 【第二審】 大防控訴院

右當事者間ノ所有權確認並占有回收要求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十七年十一月七日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

○判決要旨

- 一 或事項ヲ以テ上告ノ理由ト爲スニハ裁判所ノ職權調査ニ屬スルモノヲ除ク外 裁判所ニ提出シタルモノナラサルヘカラス(判旨第四點)
- 一 一等郵便局ノ官舎建築ニ際シ隣地ヲ侵害シタリトスル訴訟ニ付テハ遞信大臣ニ於テ國ヲ代表スヘキモノトス(判旨第五點)

明治二五年 遞信省令 第三號
同年一月 勅令第六號
明治廿四年 勅令第三號
明治三十八年八月 勅令二百六十九號
民法 第二百條

○判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

上告論旨第一點ハ本件ノ事實ハ上告人ノ所有ニ屬スル京都市上京區姉小路通東洞院西入東屋町二百四十七番地ノ一西方ノ境界ハ現時上告人所有ノ高塚所在ノ地點(第一審檢證圖面(二)點)ナリヤ將タ右高塚ヨリ西方六分二厘ノ地點(同圖面(ホ)點)即チ被告上告人ノ占據スル地内ナリヤ爭フモノナルヲ以テ上告人ハ當事者間ニ爭ナキモ東方ノ起點タル同町二百五十五番地ト其東隣地二百五十六番地ノ境界線ヨリ上告人所有ノ二百四十七番地ノ一ノ西方高塚所在ノ地點(第一審檢證圖面(二)點)迄ノ實測間數(島津益五郎鑑定圖面)十一間九分八厘ニ比シ公簿上ノ間數二百五十五番地三間一分五厘二百四十七番地ノ二、五分四厘二百四十七番地ノ一八間、九分三厘合計十二間六分二厘ナルヲ以テ實測間數ハ公簿上ノ間數ヨリ六分四厘ノ不足ヲ生スルヲ以テ上告人主張ノ如ク二百四十七番地ノ一西方境界ハ高塚所在ノ地點ヨリ西方六分二厘ノ地點ナルコトヲ主張セリ然ルニ原判決ハ此點ニ關スル爭點ヲ遺説シ何等ノ説明ヲナサ、リシハ重要ナル爭點ニ關シ判決ヲ爲サ、ル不法ノ裁判タルコトヲ免レスト云フニ在リ依テ審按スルニ上告人ハ當事者間ニ爭ナキ本件係争地ノ東ニ在ル第二百五十五番地ト第二百五十六番地トノ境界線ヲ起點トシ順次西方ニ向ヒ測量シ第二百五十五番地ノ間口ヲ三間一分五厘第二百四十七番地ノ二、五分四厘第二百四十七番地ノ一ヲ八間九分三厘トシ第一審ノ擴張圖(鑑定人島津益五郎ノ調製ニ係ル以下單ニ檢證圖又ハ鑑定圖トノ稱ス)(ホ)印ニ至ル間數十二間六分二厘ナルヲ以テ實測ト公簿上ノ差異ヨリ生シタル不足ハ被告上告人地内ニ入込ミ第二百四十七番地ノ一ト被告上告人ノ地所トノ境界ハ高塚所在ノ地點(ニ)印ヨリ西方六分二厘ノ地點(ホ)印ナルコトヲ主張シタルコトハ上告人所論ノ如シト雖原説ハ判決理由第一項ニ説示スル如ク甲號證及鑑定圖等ニ依リ當事者間爭ヒナキ第二百五十五番地ト第二百五十六番地トノ境界線ヲ起點ト爲シ順次西方ニ向ヒテ測量シ第二百四十七番地ノ二ノ間口ヲ五分四厘トシ第二百五十五番地ノ間口ヲ上告人主張ノ如ク三間一分八厘ト假定スルモ上告人方第貳百四十七

番地ノ二下第二四十七番地ノ一トノ境界ナリト主張スル地方ニ至ルマテノ間ニ於テ其主張點ヨリ一分九厘東方ニ在ル旨ヲ判定シ尙ホ以上第二五十五番地ノ間口ハ現今公簿上三間一分八厘ナルモ是レ元トニ間五分九厘ナリシヲ訂正シタルモノニシテ其訂正ノ方却テ誤リ舊間口ヲ眞實ナリト認メ而シテ其ノ如クスルトキハ上告人ノ所有地第二四十七番地ノ一ト被上告人ノ地所トノ境界即チ高堀所在地點ニ至ル迄ノ間ニ於テ僅カニ八厘ノ不足ヲ見ルニ過キサルモ其八厘モ被上告人地所内ニ入込ミ居ラサル旨ヲ説示シアリテ本論點ハ原判決理由第一項ノ判示中ニ包含スルモノトス依テ本論旨ハ原判示ニ副ハサルモノニシテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

上告論旨第二點ハ原判決ハ上告人カ原審ニ於テ第一審檢證圖面中(ヲ)點ヲ以テ二百四十七番地ノ一ト東方隣地タル二百四十七番地ノ二トノ境界ナリト主張シタルニ對シ鑑定人島津益五郎ノ實測間數ト公簿上ノ間數トノ間ニ一分九厘ノ相違アル點ヲ非難セラレタリト雖モ原判決説示ノ如ク(ヲ)點ヲ以テ境界トスルトキハ二百四十七番地ノ一西方高堀所在點(檢證圖面(ニ)點)ヨリ八分六厘ノ西方ヲ以テ境界トセサレハ二百四十七番地ノ二ノ表間口公簿上ノ間數ハ間九分三厘ト符合セサルヲ以テ假リニ上告人ノ主張スル二百四十七番地ノ二東方境界線カ(ヲ)點ヨリ一分九厘東方ニ存在スルトスルモ同番地西方ノ境界カ(ニ)點ヨリ六分二厘西方ニアリトスル主張ニ對シテハ何等影響スル所ナキヲ以テ之ヲ理由トシ上告人ノ主張ヲ排斥スル根據トセラレタルハ不當ナルノミナラス二百五十五番地ノ表間口間數カ三間一分八厘トアル公簿上ノ記載ヲ以テ全ク信ヲ措クニ足ラサルモノトナシ全然之ヲ排斥セラレタルニ至リテハ不當モ亦甚シト曰ハサルヘカラス假リニ其訂正ニ際シ原判決説示ノ如キ事實アリトスルモ公簿ノ訂正ニ至リテハ一私人ノ私シ得ヘキモノニアラス當該官吏ノ實地檢査ニヨリ其訂正願ノ當否ヲ審査シ其誤謬アルコトヲ確定シタル上之ヲ訂正スルモノナルヲ以テ公簿調製後二十年ヲ經過シタル今日ニ於テ之ヲ訂正シタリトスルモ既ニ當該官吏ニ於テ其訂正ノ正當ナルコトヲ檢査シテ之ヲ訂正シタル以上ハ反證ナキ限りハ之ヲ以テ精確ナルモノトセサルヘカラス原判決ハ舉證ノ責任ヲ轉倒シ其訂正ノ正當ナルコトニ關シ上告人ニ立證ヲ要スルモノノ如ク説明セラレタルハ檢證ノ原則ニ違反シタル不法ノ裁判ナリト曰ハサルヘカラスト云フニ在リ

依テ審接スルニ原院カ上告人所有ノ第二四十七番地ノ一ト被上告人ノ地所ノ境界ハ檢證圖(ヲ)印ノ地點ニアラスシテ(ニ)印ノ地點ナリト判示シタル理由ハ單ニ當事者間ニ爭ナキ起點ヨリ(ヲ)印ノ地點ニ至ルマテノ間ニ一分九厘ノ超過シタル差異アルコトノミニ依リタルニアラスシテ尙其外第二五十五番地ノ公簿上ノ間口三間一分八厘ハ眞實ナラスシテ其訂正以前ノ二間五分九厘ノ眞實ナルコトヲモ加ヘ説示シタルモノニシテ第一點ノ論旨ニ對シテ説明スルカ如ク原判決ハ本件係爭ノ境界線ハ(ニ)印ノ地點ヨリ六分約西方ニアラサルコトヲ判斷シアルヲ以テ本論旨前段ハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス又其後段ノ理由ニ付キテハ官廳公署ニ備付ケアル公簿上ノ記載ハ一應眞實ナリト認ム可キコトハ上告人所論ノ如シ然レトモ其記載ニシテ眞實ナラサルトキハ反證ヲ以テ打破スルコトヲ得可キヤ論ヲ俟サルナリ而シテ原院ハ本件ニ於テ第二五十五番地ノ間口ハ公簿上ニハ三間一分八厘トアルモ元ハ是レ二間五分九厘トアリタルヲ訂正シタルモノナリト雖モ其訂正ノ根據ナキコト及原判決理由第一點未段ニ掲クルカ如キ證據ニ依リテ公簿上ノ記載ノ眞實ニアラサルコトヲ表示シタルモノナレハ反證ニ依リテ公簿上ノ記載ニ關スル一應眞實ナルコトヲ推定ヲ打破シタルモノトス依テ本論旨モ亦採用スルヲ得ス

上告論旨第三點ハ假リニ二百五十五番地公簿上ノ間數三間一分八厘ヲ以テ信ヲ措クニ足ラサルモノトスルモ訂正以前ノ間數ハ原判決説示ノ如ク二間五分九厘ナリシヲ以テ當事者間ニ爭ナキ二百五十五番地東方境界ヨリ二百四十七番地ノ一西方境界ニ至ル公簿上ノ表間數ヲ計算スルトキハ二百五十五番地二百四十七番地ノ二間四分七厘ノ一合間數十二間六厘ニシテ實測間數ハ二百五十五番地東方境界ヨリ(ヲ)點迄三間九分一厘(ヲ)點ヨリ高堀所在點(檢證圖面(ニ)點)迄八間〇七厘合計十一間九分八厘(原判決ニ合間數十一間八分九厘トアルハ誤ナリ)ナルヲ以テ公簿上ノ間數ニ比シ尙ホ八厘ノ不足ヲ生スルヲ見ル原判決ハ斯ル差異ヲ生シタル理由ニ付キ全ク公簿調製ノ際ニ於テ測量ニ誤謬アリシ結果公簿ノ記載ニ誤アルモノトシ其例證トシテ二百六十九番地二百六十七番地ノ公簿間數ト實測間數トニ各一厘ノ差異アルコトヲ引用シタリト雖モ一厘ノ差異ハ僅々尺寸ニ於ケル六分ニシテ拇指大ノ距離ニ過キサルカ故ニ斯ル誤謬ハ必スシモ絶無ト云フヘカラスアルモ八厘ノ差ニ至リテハ四寸八分ノ距離ヲ爲シ容易ニ誤謬ニ陥ルヘキモノニアラサルヲ以テ他ノ地盤ニ於テ僅々一厘ノ差

異アルカ爲メニ本件八厘ノ不足モ亦公簿上ノ記載ニ誤謬アリト論定スルハ牽強附會ノ説明ニシテ判旨ニ副ハサル理由アルノミナラス若シ原判決ノ如ク八厘ノ差ヲ以テ公簿記載ノ間數ニ誤謬アルカ爲メナリトセハ其誤謬ノ何レニ存スルヤヲ指摘セサルヘカラサルニ拘ハラズ漫然關係地所ノ何レカニ於テ公簿間數ニ誤謬アルカ爲メナリト説明シ其誤謬ノ因テ生シタル根據ヲ知ルニ由ナキハ理由不備ノ違法アルコトヲ免レスト云フニ在リ

依テ審按スルニ原院カ第二百五十三番地ノ間口ノ公簿上ノ記載ヲ眞實ナラサルモノトシ島津益五郎ノ鑑定圖ニ依リ争ナキ起點ヨリ算定シ(ニ)印ノ地點ニ至ルマテノ間ニ八厘ノ不足ヲ生スルコトニ付キテハ其理由第一點未段ニ於テ説示スル如ク諸多ノ證據ニ依リテ説明シタルモノナレハ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス

上告論旨第四點ハ本件訴訟ハ所有權ノ確認ヲ求メ且侵奪セラレタル占有地ノ返還ヲ請求スル訴之ヲ換言スレハ本權ノ訴ト占有ノ訴トノ併合訴訟ナルコトハ其訴名カ所有權確認竝ニ占有回復要求事件トスルコト及第一審以來上告人カ爲シタル一定ノ申立カ「被告入(中略)ノ地所ハ原告ノ所有ナルコトヲ確認シ且該地上ニ跨リ建設シタル被告所有ノ建物ヲ取除キ且井戸ヲ埋立ツヘシ」トノ判決ヲ求メタルニ見ルモ甚タ明ナリトス(蓋シ上告人カ建物ノ取除キヲ請求スルハ被告上告人ノ建物新築ニ依リテ侵害セラレタル該敷地ヲシテ從前通りノ占有状態ニ復セシメタントスルモノニシテ即チ占有物ノ返還ニ該リ其井戸ノ埋立ヲ求ムルハ該土地カ被リタル損害ヲ回復セシムルモノニシテ結局損害賠償ノ請求ニ該リ共ニ民法第二百條ニ基スル請求ニ屬シ所有權ニ基ク回復請求ニハ非レハナリ)果シテ然ラハ本訴中占有ニ關スル請求ニ付テハ原院タルモノ須ラク上告人ハ果シテ占有權ヲ有シタルカ否其占有權ハ被告上告人ノ爲メニ侵奪セラレタルヤ否ノ點ヲ審按シ以テ其請求ノ當否ヲ判定スヘク其占有ノ權原タル本權ノ如何ニ依リ之ヲ裁判スヘキモノニ非ス然ルニ原判決力以上二點ニ付キ何等審檢スル所ナク全然右問題ヲ無視シ之ヲ本權ノ請求ト混同シテ單ニ被告ニ所有權ナシトノ理由ヲ提ケテ直干ニ原告ノ請求ヲ排斥シタルハ是レ明カニ本權ニ關スル理由ニ基キ占有ノ訴ヲ裁判シタルモノニシテ民法第二百〇二條第二次ニ背反セル違法ヲ

免レサルモノト信スト云フニ在リ

依テ審按スルニ或ル事項ヲ以テ上告ノ理由ト爲スニハ裁判所ノ職權調査ニ屬スルモノヲ除ク外其事項ハ原裁判所ニ提出シタルモノナラサル可カラズ然ルニ上告人カ本點ニ於テ論スル事項ハ裁判所ノ職權調査ニ屬スルモノニ非サルニ上告人ハ單ニ訴名トシテ所有權確認ノ外占有回復ナルコトヲ加ヘタルニ止マリ本件ニ付キ原院ニ於テ占有回復ニ干スル事項ヲ提出シタル形跡ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

上告論旨第五點ハ本訴ハ國ニ對スル民事訴訟ニシテ國ノ代表者タル遞信省ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起シ遞信大臣ハ更ニ京都郵便電信局長竹下康之ヲ指定シ遞信省ヲ代表セシメ第一審以來其訴訟ヲ繼續シ來リタリ然レトモ本訴ハ元ト京都郵便電信局長カ其管理スル官舎建築ニ際シ原告土地ヲ侵害シタルヤ否ニ關スル争訟ニシテ結局一等郵便電信局ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ外ナラサルヲ以テ明治二十五年遞信省令第三號ニ依リ一等郵便電信局カ訴訟ニ付キ國ヲ代表スヘキモノニシテ遞信省ニ依リ代表セラルヘキモノニ非ス從テ遞信省ヲ被告トスル本訴ハ不合法ナリト云ハサルヘカラス尤モ遞信大臣ハ更ラニ竹下康之ヲ指定シタル事前述ノ如クナルヲ以テ結局京都郵便電信局長ニ依リ代表セラル、結果ヲ生シ爲メニ不法ヲ除却シタルノ看ナキニ非スト雖モ是唯遞信省ノ一所屬官吏タル竹下康之カ二十四年勅令第三條ニ依リ遞信省ヲ代表シテ訴訟ヲ爲シタルモノニ外ナラサルヲ以テ偶同人カ郵便電信局長タルノ故ヲ以テ直チニ京都郵便電信局カ代表シタルモノト云フコトヲ得サルハ多言ヲ要セサルナリ然リ而シテ此等當事者ノ代表資格ノ如キハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬シ當事者ノ自由所分ヲ許サ、ル訴訟成立條件ニ係ルヲ以テ當事者間ニ争アルト否トヲ問ハス裁判所タルモノ必ス進ンテ本件被告ノ資格欠缺ヲ調査シ不合法トシテ本訴却下ノ判決ヲ爲スヘキモノナルニ事茲ニ出テスシテ之ヲ看過シタル第一審及ヒ原院判決ハ共ニ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

依テ審案スルニ明治二十五年一月勅令第六號第二條ノ規定ニ依リ同年同月遞信省令第三號ヲ以テ一等郵便局カ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付キ國ヲ代表ス可キ規定アルヲ以テ本件上告人カ私權ノ侵害ヲ受ケタル事カ京都郵便電信局(明治三十

年八月勅令第二百六十九號郵便電信局官制ニ依レハ京都郵便電信局ハ一等郵便電信局タリノ事務ニ屬スルニ於テハ上告人所論ノ如ク遞信大臣カ國ノ代表者ニ非スシテ右省令ニ依リ京都郵便電信局長本件ニ付キ國ヲ代表ス可キモノナリト雖モ明治卅年勅令第二百六十九號郵便電信局官制ヲ見ルニ其第八條ニ一等郵便局長ハ云々遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ストアリ其局中一切ノ事務トハ郵便電信ノ事務ヲ續行スルコト(第一條)及ヒ同官制第三條ニ掲クルカ如キ事務ヲ指スモノニシテ本件ノ如ク地所ヲ買入レ建築ヲ爲スニ際シ隣地ヲ侵害シタリト云フカ如キ事項ハ一等郵便電信局ノ管掌スルモノニ非ス故ニ本件ノ如キ訴訟ノ提起セラレタルトキ一等郵便電信局カ國ヲ代表スルニ非ラスシテ遞信大臣之ヲ代表ス可キモノトス依而上告人カ遞信大臣ヲ相手トシ第一、二審裁判所モ之ヲ適法ナル國ノ代表者トシテ本件ヲ審理裁判シタルハ相當ニテ本論旨ハ採用スルヲ得ス

以上説明スルカ如ク本件上告ハ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ棄却ス可キモノトス

○竊盜官印官文書偽造行使詐欺取財私印盜用竝附帶私訴ノ件

(大審院明治三十八年(九)一五五號 告棄却)

【公訴上告人】 加藤九八郎

【私訴上告人】 金澤郵便局長代理 山崎太郎

【指定訴訟行爲者】 城西周雄

【第一審】 金澤地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判決要旨

一 民事訴訟ニ付キ國ノ代表者ヲ定タル勅令及省令ハ私訴ニ付テモ亦之ヲ適用スヘキモノナリ

○事實

右被告九八郎ニ對スル竊盜官印官文書偽造行使詐欺取財私印盜用被告事件並ニ附帶私訴ニ付明治三十八年十二月二日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告九八郎ハ公訴判決民事原告人山崎太郎指定訴訟行爲者城西周雄私訴判決ニ對シ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

○理由

被告九八郎上告趣意書ハ原院判決中自分ノ行爲ニ係ル小爲替證書ニ押捺ノ郵便日附印ハ刑法第九十五條ノ官印偽造トシテ刑ヲ適用シタルハ失當ナリ即チ右日附印ハ官印ニアラスシテ記號ニ屬スルモノナリト云フニ在リ○然レトモ原判決ニ依レハ本件被告カ偽造シタル郵便日附印ハ郵便局ニ於テ爲替事務ニ使用スヘキ印章ナレハ即チ刑法第九十五條ニ規定シタル官署ノ印ニシテ同第九十六條ニ規定シタル產物商品若クハ書籍什物等ニ押用スヘキ官ノ記號印章ニアラサルヲ以テ原判決ノ法律適用ハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

民事原告人上告趣意書第一點ハ犯罪事件ノ處理ニ付テハ管轄區域(又ハ管掌區域)ナルモノ存在セス原審ハ一等局長ノ職務權限ノ範圍ハ明治三十六年勅令第四十號通信官署官制第一條第五條ニ於テ規定セラル、所ニシテ其第一條ニ因ルモノハ事務ノ種類ニ依テノミ限定ヲ見ス其第五條ニ因ルモノハ事務ノ種類ト地域ト兩者ニ依テ限定セラル而シテ其第七條ニ於テ規定セラル、所ノ一等郵便局管轄區域ナルモノハ第五條ノ管轄區域ヲ説明シタルニ過キサルモノナルヲ以テ之カ爲メ毫モ職務權限ノ伸縮ヲ見ス故ニ一等局長ノ職務權限ハ第一條ト第五條トニ因ルモノノ外之カ存在ヲ認メサルナリ犯罪事件ニ

國ノ代表者ニ對スル命令ノ適用

關スル處理ノ事務ハ前記第五條ニ因ルモノ、内其何レニ該當スルモノナルカ蓋シ第五條ニ記載スル所ノ事務ハ左記ノ各號ニシテ犯罪事件處理ノ事務ハ其何レニモ該當スル所アルヲ見ス、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ管理事務、廳舎營繕事務ノ一部分、電信電話建築事務、但犯罪事件處理ノ事務ハ管理事務中ニ包含スルモノナリト誤解セラレ易キニ付茲ニ管理事務ナルモノ、内容ヲ説明セントス一等郵便局ニ屬スル管理事務ハ更ニ左記ノ行政爲ヲ包括スルモノナルヲ以テ犯罪事件處理ノ事務即チ犯人ノ發見、犯罪ノ告發、損害ノ防遏、回復等ノ如キ事項ハ管理事務トハ毫モ關係ナキコト明瞭ナリトス甲、下級機關ニ對スル監督ノ事務乙、下級機關ニ對スル訓令ノ事務、果シテ然ラハ犯罪事件處理ノ事務ハ通信官署官制第一條ノ職務ニ屬スルコト疑ナク該條ノ範圍内ニ於テ遞信大臣カ内部ニ對シ明治三十七年八月十三日公達第五百九十一號犯罪事件處理手續ヲ以テ特別ニ職務執行方法ヲ命令スル所アリタリ然シテ左記ノ權限ハ當然ニ等局長ノ職務ニ屬スルニ至ルモノナリ若シ尙ホ犯罪事件處理ノ事務ヲ通信官制第五條ノ職務ニ屬スルモノトセハ遞信大臣カ右公達第五百九十一號犯罪事件處理手續ニ依リ以テ二等局長、電信局長、電話局長、三等局長及取扱主任者等ニ命令シタル職務ハ悉ク勅令即チ通信官署官制ノ範圍ヲ超脱シテ一等局長以外ノモノニ管理事務ヲ兼掌セシメタルモノト云ハサルヲ得ス畢竟此命令不法トナリ頗ル不當ナル論結ニ陥ルモノニシテ究メサルノ甚シキモノナリ一等郵便局長カ其職務ヲ行フニ原由シテ發見認知スル所ノ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル總テノ犯罪事件ヲ處理スルノ權限此ノ權限ハ即チ通信官署官制第一條ニ因ル所ノ職務ナルカ故ニ事務ノ種類ニ於テノミ限定セラレ關係地域ニ對シテハ何等限定セラル、所ナシ本私訴ハ即チ一等郵便局長タル金澤郵便局長カ職務ヲ行フニ原由シテ發見認知シタル郵便爲替ニ關スル犯罪事件ニ附帶スル所ノ私訴ニシテ上述理由ニ於テ詳述スル所ノ犯罪事件處理ノ事務ニ屬シ當然金澤局長ノ司掌事務タルヘキ民事訴訟ナリ故ニ明治二十五年遞信省令第三號ニ依リ金澤郵便局長ハ本私訴ノ全部ニ對シ國ノ代表權ヲ有スルヲ正當トス然ルニ第一審ニ於テハ金澤以外ノ東京大阪新潟等ノ一等郵便局管理事務ノ管理區域内ニ於テ騙取セラレタルコトヲ原因トスル損害返還ノ訴ヲ却下シ第二審ニ於テハ民事原告人ノ控訴ハ棄却セラレテ第一審ノ判決是認セラレタルハ畢竟犯罪事件處理ノ事務ヲ通信官署官制第五

條ノ管理事務中ノ一部ナリト誤解シタルニ起因セルモノニシテ即チ法則ヲ不當ニ適用シ法律ニ違背シタル判決ヲ爲シタルモノト思料スト云フニ在レトモ通信官署官制第一條ハ「通信官署ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便郵便爲替貯金電信及電話ニ關スル事務ヲ掌ル」トアリテ通信官署全體ニ關シ其所屬ト事務ノ種類トヲ明カニシタルモノニシテ第二條以下ニ於テ各通信官署ノ司掌事務ヲ定メ其第五條ニ於テ「一等郵便局ハ其管轄區域内ノ郵便郵便爲替貯金電信及電話ノ管理事務竝ニ局舎營繕事務ノ一部及ヒ電信電話ノ建築事務ヲ兼掌ス」ト規定シ第一條所掲ノ事務中ニ於テ一等郵便局ノ司掌事務ヲ限定シタルモノナレハ一等郵便局ハ其管轄區域内ニ於ケル事務ニ限リ之ヲ司掌スル權限ヲ有シ其以外ニ涉ルノ權限ヲ有セサルコト甚明瞭ナリトス而シテ明治二十五年遞信省令第三號ハ各一等郵便局カ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スヘキコトヲ定メタルモノナレハ本件金澤郵便局長カ其管轄區域外ニ於ケル爲替事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルノ資格ナキヤ辯ヲ俟タサルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第二點ハ損害ノ原因ハ小爲替證書ノ偽造行使ナリ原審ハ之ヲ詐欺取財ニ原因スルモノト誤認ス從テ犯罪地ヲ誤解シ金澤郵便局長ノ職權ヲ無視ス本件ノ公訴ニ於テ小爲替證書偽造行使詐欺取財及ヒ其他ノ犯罪ヲ列舉シ數罪俱發ノ例ニ依リテ擬律シアリ而シテ私訴ニ對シテハ總テ詐欺取財ヲ以テ損害ノ原因トナシテ之レカ採否ヲ決定シテアリ但犯人加藤九八郎カ富山縣伏木町ニ於テ井上方忠ナル者ニ宿料支拂ノ目的ヲ以テ正當ノモノトシテ交付シ同人ニ於テ伏木郵便局ヨリ額面金額五圓ヲ受取リタル所ノ偽造小爲替證書一口ノミニ對シテハ偽造行使ヲ以テ損害ノ原因トシテ判決シテアリ(第一審判決參照)然レトモ井上方忠ニ對シ宿料支拂ノ目的ヲ以テ正當ナルモノトシテ交付シタル偽造小爲替證書ト雖モ是亦一ノ詐欺取財ナル犯罪ヲ構成シ居ルコトハ明瞭ナリ然ルニ同シク偽造行使ト詐欺取財トカ併用セラレ居ル所ノ損害ニ對シ一ツハ偽造行使ヲ以テ其原因トナシ他ハ詐欺取財ヲ以テ其原因ト爲スハ抑モ當ヲ得ス關係ナキ第三者ノ手ヲ經テ招キタル損害カ偽造行使ニ原因スルモノトセラレテ本人自ラ郵便局ニ對シ行使シタルモノカ偽造行使ニ原因スルモノニ非ラストセラレハ甚ク事理ニ通セサル所トス元來損害ノ原因ニ付テハ私訴狀ニ於テハ何等述フル所アラス然ルニ原審ハ次ニ其原因ヲ詐欺取財ナリトシ

テ其犯罪地所轄權限ニ及シタルハ不當ナリト信ス本私訴ニ於テハ詐欺取財ト小爲替證書偽造行使トハ其行爲ニ於テ何レモ全ク同一ノ内容ヲ有シ詐欺取財ノ遂行セラレタル所ニハ必ス之レニ伴フテ偽造行使モ亦遂行セラレ又偽造行使ノ遂行セラレタル所ニハ必ス之レニ伴フテ詐欺取財モ亦遂行セラレ其行爲ハ何レモ前後ナク長短ナシ畢竟兩罪ハ「偽造小爲替證書ヲ用ヒテ以テ他人ノ財物ヲ得タリ」ト云フ一箇ノ不法行爲ニ對シ一方ハ之レヲ信用上ノ側面ヨリ觀察シテ偽造行使トナシ他方ハ之レヲ財産上ノ側面ヨリ觀察シテ詐欺取財トナシタルニ過キス結局一箇ノ不法行爲カ二箇ノ犯罪ヲ構成シタルノ結果ヲ見ルト云フニ歸着スヘシ元來犯罪ハ一行一罪ヲ構成スルヲ原則トスルハ既ニ定論ノ存スルアリ結果ハ假令ヘ幾多ノ犯罪ヲ現出スルモ其原因タル行爲カ一箇ニ止マラハ一罪ヲ構成スヘキモノニシテ數罪ヲ構成スヘキモノニアラス故ニ本私訴關係事件ノ如キハ罪ノ最モ重キ一ノ偽造行使罪ノミ存在シテ詐欺取財罪ハ存在スヘキモノニアラス竟畢損害ヲ招キタル原因ハ小爲替證書ノ偽造行使ニ屬スルモノトス果シテ損害力偽造行使ニ屬スルモノトセハ偽造ノ始メヨリ行使ノ終リニ至ル迄ノ一箇ノ犯罪行爲ノ全體カ原審ノ所謂金澤郵便局ノ管轄區域内ニ於テセラレタルモノハ論ナキモ其行爲ノ或ル一部カ金澤管掌區域内ニ於テセラレ殘リノ一部カ他管轄區域内ニ於テセラレタル場合ニ於テハ金澤郵便局ハ毫モ犯罪ヲ處理スルノ職權ナキモノト斷定スルハ頗ル不當ナリ本私訴ニ關係スル小爲替證書ノ偽造行使ナル犯罪行爲ノ内其一部即チ偽造ナル行爲ハ金澤管掌區域内ノ美川町ニ於テセラレタルコトハ控訴院法廷ニ於ケル犯人加藤九八郎ノ自白及幾多公訴證據書類ニ於テ明瞭ナリトス而シテ右犯罪行爲ノ殘リノ一部即チ行使ハ或ハ金澤管轄區域内ニ於テセラレタルモノアリ或ハ東京大阪新潟等各郵便局管轄區域内ニ於テセラレタルモノアリ其他管轄區域内ニ於テセラレタルモノハ何レモ金澤管轄區域内ニ於テ着手セラレタル犯罪行爲カ他管轄區域内ニ涉リテ完結シタルニ過キサルヲ以テ前陳ノ如ク畢竟金澤管轄區域内ノ犯罪タルヲ失ハス隨テ金澤局ノ管轄事務ニ當然明瞭疑ヲ祛ムノ余地ナシト信ス但管轄區域ナル語ハ須ラク原審ニ於ケル用語ヲ借用シタルモノニシテ上告人ハ此ノ事務ニ對シ此區域アルヲ認メサルハ第一點ノ主張ニ於テ詳カナリ右ハ原審カ損害ノ原因トナルヘキ犯罪行爲ヲ誤認シタル結果ニシテ即チ擬律ニ錯誤アリテ法律ニ違背シタル判決ナリト云フニ在レトモ○本件ノ私訴

ハ金澤廣坂郵便局外二十八ヶ所ニ於テ被告ノ爲メ詐取セラレタル金額ノ返還ヲ求ムルモノナルコトハ私訴狀ニ徴シテ明瞭ナレハ其詐取セラレタル郵便局カ金澤郵便局ノ管轄區域ニ屬スルモノヲ除クノ外ハ同郵便局ニ於テ損害賠償ヲ求ムルハ其司掌事務ニ係ラサルヲ以テ國ヲ代表シテ民事訴訟ヲ爲スノ資格ヲ有セサルヤ明カナリ故ニ被告カ詐欺ノ手段ニ供スル爲メ證書ヲ偽造シタル場合カ假令金澤郵便局ノ管轄區域内ニアリトスルモ爲メニ同郵便局カ國ヲ代表スルノ資格ヲ生スヘキヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

第三點ハ原審ハ勅令及ヒ遞信省令ヲ不當ニ解釋ス明治二十五年一月遞信省令第三號ニ於テ一等郵便局長ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スト規定セルハ一等郵便局ノ司掌事務ニ關係アル民事訴訟ニ付テハ其關係ノ程度如何ヲ問ハス一等郵便局長ニ代表權アルモノナリトノ意義ニシテ原審ノ判決ノ如ク請求ノ原因タル事實カ悉ク其管轄區域内ニ在リタル場合ニアラサレハ代表權ナシト云フハ恣ニ制限ヲ加ヘテ前記ノ勅令及遞信省令ヲ解釋シタルモノナリト謂ハサルヘカラス本私訴ニ於テ損害ノ原因タル不法行爲ハ悉ク金澤郵便局ノ管轄區域内(若シアリトスレハ)ニ於テ發生シタルモノナルコトハ第二點ニ於テ之レヲ主張シ又本件ニ關シ管轄區域ナルモノヲ否認スルコトハ第一點ニ於テ主張シタル所ナレトモ今一步ヲ讓リテ犯罪處理ノ事務ニ關シ一等郵便局ニ管轄區域ナルモノアリトスルモ其不法行爲ハ爲替證書用紙ノ竊取及官印ノ盜用等ナクテハ全然不可能ニ屬シ其用紙及官印ハ金澤郵便局長管轄ノ下ニ在リタルモノナルカ故ニ本私訴ハ金澤郵便局長ノ司掌事務ト重大ナル關係ヲ有スルコト明瞭ナルヲ以テ本私訴ニ付金澤郵便局長カ國ヲ代表スルハ右勅令及遞信省令ノ趣旨ニ適ヒ當然ノ處置ニ屬ス然ルニ原審ニ於テ之ヲ否認セルハ畢竟恣ニ制限ヲ加ヘテ勅令及遞信省令ヲ解釋シタルモノニシテ不當ノ解釋ト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○本論旨ノ理由ナキコトハ前二項ノ說明ニ依リ了解スヘシ

第四點ハ刑事訴訟法ニ依ルヘキ私訴ニ對シ恣ニ民事訴訟法ヲ適用シ擬律ニ於テ錯誤アリ明治二十四年勅令第三號及明治二十五年勅令第六號第二條ニ基ク同年遞信省令第三號ハ民事訴訟法第十四條第一項但書ニ基キ民事訴訟ニ關スル國ノ代表者ヲ定メタルモノニシテ民事訴訟ニ關シテハ必ス該勅令及遞信省令ノ規定ニ從ハサルヲ得スト雖モ公訴附帶ノ私訴ハ民事訴訟

訟ト其性質ハ相類スルモ刑事訴訟法ニ於テ特ニ明文アルトキノ外悉ニ民事訴訟法ノ規定ヲ適用スルヲ得ス而シテ民事訴訟法第十四條ノ規定ハ刑事訴訟法ノ引用スル所ニ非ラサルヲ以テ私訴ノ場合ニ於ケル國ノ代表權ハ引用ヲ要セザル民事訴訟法ノ各項ニ基ク所ノ勅令及遞信省令ヲ適用シテ之ヲ解決スヘキモノニアラス原審ニ於テ之レヲ適用シタルハ即チ擬律ノ錯誤アルモノトス」然ルニ原審ニ於テハ「私訴ハ元來民法ニ從ヒ被害者ニ屬スル權利ニシテ即チ民法上ノ請求ニ外ナラサルハ其民事訴訟法ニ基ク國ノ代表者ヲ定ムヘキモノタルヤ論ヲ俟タサル所」ナルノ理由ヲ以テ本主張ハ之ヲ採用セラレザリシモ民法ニ依ル權利ノ主張ハ總テ民事訴訟法ニ依ラサルヘカラサルノ法規ハ存在セス之ニ反シテ現ニ公訴附帶ノ私訴ハ諸般ノ手續等總テ刑事訴訟法ニ依リテ其權利ヲ主張シ得ヘキノミナラス原審ヲ採用セシ法理ノ如クハ刑事訴訟法中民事訴訟法ヲ特ニ引用シタル條項ノ存スルアルハ何ノ理由ヲ以テ之レヲ説明セントスルカ大ニ了解ニ苦ム所トス畢竟原審ノ判決ハ錯誤アルヲ免カレズ結局本私訴ニ於ケル國ノ代表權ハ刑事訴訟法ニ何等明文ノ存在スルモノナキヲ以テ上告人ハ左ノ主張ヲ爲ス國務大臣ハ其管轄スル所ノ事務ニ關スル國ノ損害ニ付テハ責任上自カラ之レニ對スル處理ヲ爲スヘキハ當然ナルモ特ニ所屬官僚ニ命令シテ之ヲ處理セシムルコトヲ得ルハ明瞭ナリトス一等局長タル金澤局長ハ遞信大臣方内部ニ命令シタル明治三十七年公達第五百九十一號犯罪處理手續ニ依リテ本犯罪事件ニ關スル私訴ノ提起ヲ命セラレタルモノナリト云フニ在リ○然レトモ私訴亦一ノ民事訴訟ナレハ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタル右勅令竝ニ省令ハ私訴ニ付テモ亦之レヲ適用スヘキハ當然ナルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

檢事田部芳千與明治三十九年二月九日大審院第一刑事部

○官印盜用官文書偽造行使竊盜ノ件

(大審院明治四十年(九)第六六六號
明治四十年七月二十三日宣告破毀)

【被告人】 川邊宗助

【第一審】 鹿兒島地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判決要旨

一郵便局通信事務員ハ局長ノ指揮ニ從ヒ事務ヲ取扱フ雇員ニ過キスシテ官吏ノ資格ヲ有セサルハ勿論法律上局長印及ヒ日附印ヲ監守スルノ職責ヲ有スルモノニ非ス

(參照) 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑法第九十九條)

御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス(刑法第九十七條第一項)

官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百三條第一項)

受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一圓以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑法第三百九十五條)

通信事務員ノ資格ニ關スルコト

刑法
第九十
七條
第九
十五
條
第二
百三
條

○事實

右官印盜用官文書造偽行使窃盜被告事件ニ付明治四十年六月五日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

○理由

上告趣意書ハ上告人ハ原院カ認メラレタル如キ所爲アリトスル原判決ハ擬律ニ錯誤アル違法ノ裁判ナリトス刑法第九十七條第二項ニ所謂監守者トハ法律上監守ノ責アル者ノ義ニシテ事實上ノ占有者ヲ指スニアラス然ルニ原院ニ於テ郵便局長ニアラサル被告ヲ目スルニ郵便局長印ノ監守者ヲ以テシ同條項ヲ適用シテ重懲役九年ニ處セラレタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ郵便局通信事務員ハ局長ノ指揮ニ從ヒ事務ヲ取扱フ雇員ニ過キスシテ官吏ノ資格ヲ有セサルハ勿論法律上局長印及ヒ日附印ヲ監守スルノ職責ヲ有スルモノニ非サレハ縱令事實上局長ノ委託ヲ受ケ右印ヲ保管スルコトアルモ刑法第九十七條第二項ニ所謂監守者ナリトスルヲ得ス故ニ原判決カ被告ノ右印影盜用ノ所爲ニ同條項ヲ適用シテ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニシテ本論旨ハ理由アリ依テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本案ニ付直ニ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

右

川邊 宗助

原院ノ認定事實ニ依リ法律ニ照ス第一乃至第十六ノ所爲ハ刑法第三百九十五條前段ニ該リ第十七ノ所爲中郵便貯金通帳偽造行使ハ同法第二百三條第一項ニ佐多郵便局長印及ヒ同局日附印盜用ハ各同法第九十七條第一項第九十五條ニ該當シ官文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ盜用シタルモノナルヲ以テ同法第二百六條ヲ適用シ重キ郵便貯金通帳偽造行使ニ從ヒ尙數罪俱發ニ付同法第一百條ニ依リ一ノ重キ同通帳偽造行使ノ罪ニ從ヒ被告ヲ輕懲役七年ニ處シ押收物件中郵便貯金通帳ノ偽造ニ係ル部分ハ同法第四十三條第一號第四十四條ニ依リ之ヲ沒收シ爾餘ノ部分及ヒ他ノ押收物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ

◎損害賠償請求ノ件(大審院明治四十二年(オ)第二百號棄却)

【上告人】 王子製紙株式會社右法定代理人 鈴木梅四郎

【訴訟代理人】 鶴澤總明 大西幸次郎

【被上告人】 國ノ指定代表者 高野泰輔 【訴訟代理人】 岸清一

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

右當事者間ノ損害賠償請求事件ニ付東京控訴院カ明治四十二年四月十七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

○判決要旨

一 國家ノ行爲ニシテ主トシテ其財産上ノ利益ノ爲メニスルモノハ即チ國家ノ私經濟的動作ニシテ私法ノ適法ヲ受クルモ其主トシテ公共ノ利益ノ爲メニスルモノハ公法上ノ行爲トシテ公法ノ適用ヲ受クヘキモノトス

國家ノ私法行爲ト公法上ノ行爲

- 一 砲兵工廠火藥製造所ノ火藥製造事業ハ公法上ノ行爲ニシテ所員カ其火藥製造
- ニ從事スルハ國家ノ一機關トシテ行動スルモノニ外ナラサレハ其行爲ニ因リ
- テ個人ニ損害ヲ加フルモ國家ハ法令ニ特別ノ規定ナキ限り私法上ノ責任ヲ負
- フヘキモノニ非ス

○判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス
上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

○理由

上告理由第一點ハ原判決ハ國家ノ私法上ノ行爲及ヒ其公法上ノ行爲ヲ區別スル標準タル根本問題ヲ説明スルニ當リ種々ナ
ル語辭ヲ用キ且ツ錯雜セル觀念ニ支配セラレタリト雖モ要スルニ「國法カ國家ハ私人ト對等ノ關係ニアル權利ノ主體トシ
テ行動スヘキモノトセルトキハ之ニ關スル國家ノ行爲ハ權利上ノ行爲タルト事實上一ノ行爲タルトヲ問ハス凡テ之ヲ私法ノ
範圍ニ屬セシムヘク之ニ反シテ國法カ國家ハ權利ノ主體トシテ行動スヘキモノトセルトキハ之ニ關スル國家ノ行爲カ權利上
ノ行爲タルト事實上一ノ行爲タルトヲ問ハス凡テ公法ニ依リテ支配セラルヘキ公法上ノ行爲ナリト云ハサルヲ得ス」ト云フ
ニ歸着ス上告人ハ公法私法ノ區別ヲ權利ノ兩關係ニ置ク學說ニ對シテハ多年疑ヲ挿ムモノナレトモ假ニ原判決ノ説明
ノ如シトスルモ其公法上ノ行爲ニ關スル説明ニ於テ全ク理解スルコト能ハサルモノアリ試ニ前段ノ説明ヲ按スルニ「國法
カ國家ハ權利ノ主體トシテ行動スヘキモノトセルトキハ」トアルハ國法中明文ヲ設ケテ斯ノ如キ行爲ハ權利ノ主體トシテ
行動スヘキモノナリト規定スル場合ヲ指スモノナリヤト言フニ決シテ然ラス何トナレハ國法中上述ノ如キ明文ヲ掲ケタル
モノ無ケレバナリ而シテ原判決ハ此關係ヲ説クニ當リ全ク性質論ニ讓リタリ即チ原判決ニ於テ「國家カ自存ノ目的上國家
ノ自身ノ行爲ヲ必要トスルカ如キ行爲ノ性質上國家ノ行爲タルヲ要スル場合ハ國法モ亦之ヲ公法上ノ行爲トナスヘク否

ラサル場合ハ國法モ亦之ヲ私法上ノ行爲トナスコト多カル可キヲ以テ行爲ノ性質カ國家ノ行爲タルヲ要スルヤ否ヤハ公法上
ノ行爲ナルヤ否ヤヲ判斷スルニ付キ斟酌スヘキ重要ノ事項タルヲ論テ候タス」トアルモノ蓋シ此義ニ外ナラサル可シ此性
質論ニ於テ説明ノ主眼トスル所ハ國家カ自存ノ目的上國家ノ自身ノ行爲ヲ必要トスル場合ハ公法上ノ行爲ナリト言フニ在リ
即チ權利關係ノ岐ルル點ハ國家ノ自存目的上國家ノ自身ノ行爲ヲ必要トスルヤ否ヤニ在リト斷定シタルナリ然レトモ國家ノ
自存目的上國家ノ自身ノ行爲ヲ必要トスル場合ハ敢テ公法上ノ行爲ニ限ル可キモノニ非ス原判決ノ「國家自身ノ行爲」ヲ專業
ト解釋スルモノトセハ煙草官營ノ如キ鹽專賣ノ如キ執レモ國家自身ノ行爲ニシテ而シテ國家ノ自存目的ノ爲メ必要ナルコ
ト何人モ異論ナキ所ナルヘシ然レトモ斯ノ如キ行爲ハ學說上私法上ノ行爲ト認ム可ク原判決ノ私法上ノ行爲標準ニ依ルモ亦同様
ナルモノナルニ若シ原判決ノ如クセハ是等ハ總テ公法上ノ行爲ト解釋セサル可カラズ而シテ其結果ハ遂ニ國家ノ爲全部ヲ公法的
行爲ト論セサル可カラサルニ至ラン若シ又「國家自身ノ行爲」ヲ國家ノ機關タル官吏ノ職務上ノ行爲ナリト解釋センカス
ノ如キ行爲中ニハ公法的ニ私法的ノ兩種アルコトハ原判決ニ於テモ亦認ムル所ナルヲ以テ之ヲ執レニスルモ原判決ノ説
明ハ不當ナリ果シテ然ラハ原判決ノ根柢ニ於テ立論ノ趣旨ニ誤謬アルモノニシテ之ニ基キテ本訴ニ關係アル火藥製造業ヲ
國家ノ公法的行爲ナリト論斷シタルハ理由不備ニシテ法律ヲ不當ニ適用シタル不法アリト信スト云ヒ」第二點ハ原判決ニ
於テハ「國法カ國家ハ權利ノ主體トシテ行動スヘキモノトセルトキハ之ニ關スル國家ノ行爲ハ權利上ノ行爲タルト事實タル
トヲ問ハス凡テ公法ニ依リテ支配セラルヘキ公法上ノ行爲ナリト云ハサルヲ得ス」ト論シ又「其行爲ハ權利ノ主體タル國
家ノ業務ニ非スシテ權利ノ主體タル事業ナリト解スルヲ至當トス」ト認定シテ最後ニ「製造行爲自體ハ直ニ私人ニ對スル權
力作用ニアラサルモ公法ニ依リテ支配サル可キ公法上ノ行爲ナリト云ハサルヲ得ス」ト説明シタレトモ火藥製造ニ關スル
法規ハ單ニ國家カ火藥ノ製造ヲ實行スル爲メニ設ケタル爲又ハ官吏ノ關係若クハ委任以外ニ餘人ノ製造行爲ヲ取締マル方
法ヲ定メタルニ止リ火藥製造事業ヲ以テ國家カ私法上ノ行爲ヲ爲ス爲メニ特ニ權利ノ主體トシテ行動ス可キモノト
定メタルニ非ス凡テ製造事業ハ一箇ノ技術的行爲ナリ國家之ヲ爲スモ個人之ヲ營ムモ此事業ニ於テハ毫モ異ル所アルヲ見

ス國家ニ在リテハ技術的行爲ハ變シテ權力ノ主體タル事業トナリ個人ニ在リテハ私法上ノ事業ト爲ルト解スルカ如キハ公法私法ヲ主體ニ依リテ區別スルニ過キスシテ原判決ノ根本理由ト齟齬スルニ至ル可シ國家ハ如何ナル場合ニ於テモ個人タルコトハ能ハス即原判決ノ用語ニ據レハ國家ハ常ニ權力ノ主體タルナリ斯ノ如ク權力ノ主體タリ個人ト異ル國家タリト雖モ其行動ヲ觀察スレハ全ク個人ト異ナラサル状態ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ル場合アリ換言スレハ國家ナラサル個人ニ於テ行動シ得ルカ如ク行動スル場合アリ而シテ之ヲ事業ノ關係ヨリ論スレハ斯ノ如キハ私法行爲ニシテ此行爲ヲ爲スヘキ機關ハ公法ノ規定スル所ナリトスルモノハ敢テ問フ所ニアラサルナリ火藥製造事業ノ如キ技術的行爲ハ個人ニ於テモ之ヲ爲シ得ヘキコトハ銃砲火藥類取締法第二條ノ委任ニ依リテモ之ヲ推知シ得可ク事業自體トシテハ毫モ國家ト必須不離ノ關係ヲ有スルモノニ非ス國家ノ事業トナリ若クハ個人ニ對シテ禁止スル場合ハ事業カ直ニ合法的ノ性質ニ變スルモノトスル見解ノ誤謬ナルコトハ既ニ前頁ニ於テ述ヘタリ而シテ國家カ權力ノ主體トシテ行動スル場合ニ於テモ公法行爲私法行爲ノ兩種アリ個人ト毫モ異ナラサル關係ニ於テ爲スコトヲ得ル場合ハ私法行爲ト爲シ民法上ノ事實ト認ム可キモノト説明スルニ非サレハ原判決ノ所論ニ據ルモ國家ノ行爲ハ常ニ公法行爲タルニ止リ國家ノ私法行爲ヲ認ムルコト能ハサルニ歸ス果シテ然ラス原判決ハ此點ニ於テモ亦法律ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云ヒ第三點ハ公法私法ノ區別ハ主トシテ學術上ノ用語タルニ止リ國家ヨリ觀レハ總テ一國ノ法律タリ故ニ國家ノ事業ハ常ニ民法ノ支配ヲ受クルコトナシト解釋スルカ如キハ官尊民卑ノ思想ヨリ誤ツテ民法ヲ人民法ト信スルモノニシテ道理ニ基ク解釋法ニ非ス國家ハ或ル事業ヲ官業トシテ專ラ之ヲ營ムコトアリ或ハ私人ト同一ニ之ヲ經營スルコトアリ獨占事業トシテ私人ニ之ヲ許ササルカ如キ又私人ニ或部分ノ經營ヲ許スカ如キハ國家ノ都合ニヨリ出ツルモノニシテ獨占事業タル事ヲ以テ直ニ公法行爲トシテ説明スルコト能ハス且又國家ノ事業ハ總テ國家自存ノ爲ニ必要ナルモノニシテ行政權ノ發動ヨリ生スル行爲ハ國家ノ存立ト關係無キハアラス國家ハ自存ノ目的ノ爲ニ私法的事業ヲ經營スルコト往々ニシテ之レアルナリ鐵道運輸ノ事業ノ如キモ亦財政交通ノ目的ニ出テ國家自存目的ノ爲メ極メテ重要ナリ鐵道院ノ官制ニ基キ國家ハ此私法的事業ヲ經營スルナリ而シテ事業ノ實際ニ

當ルモノハ官吏ナリ雇員ナリ而シテ近年鐵道事故頻頻トシテ起リ生命財產ニ危害ヲ及ホシタル實例甚ダ多シ此場合ニ私人民法ノ規定ニ基キ損害ノ賠償ヲ請求スルコトアリトセンカ裁判所ハ均シク原判決ノ如ク鐵道事業ニ付キ其權限内ニ屬スル職務ヲ執行スルニ當リ損害ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ國家ハ損害賠償ノ責任ナシト言フ可キカ斯ノ如クセハ國家ハ行政行爲ヲ以テ汽車ヲ運轉シ行政行爲ヲ以テ私人ノ生命財產ニ損害ヲ加ヘツムアルモノト言ハサル可ラス法理ノ正解ト言フコト能ハサルニ似タリ本件火藥製造事業ハ鐵道事業ト異ル所無キナリ然ルニ原判決ハ總テ官吏ノ行政上ノ行爲ト爲シ又製造所カ使役スル工夫ヲ以テ官吏ノ手足トシテ行動スルモノナルヲ以テ人格ト見做ササルカ如キハ甚クシキ誤謬ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ

因ツテ按スルニ國家ト個人トノ關係ニ於テ如何ナル場合ニ國家ハ私法行爲ノ關係ニ服スルモノナルヤハ現時ノ國法ニ照シテ之ヲ定ムルノ外ナク國家カ個人ニ對シテ命令シ其服從ヲ強制スル場合ハ公法行爲ト疑ヒナキ所ナルト共ニ國家カ其私經濟的動作ヲ爲ス場合ハ國家カ私法行爲ト服スヘキ一ノ場合ナルコト亦疑ナシ而シテ國家ノ行爲ニシテ主トシテ國家ノ財產上ノ利益ノ爲メニスルモノハ乃チ國家ノ私經濟的動作ニシテ私法行爲トシテ私法ノ適用ヲ受クヘク之ニ反シテ國家ノ行爲ニシテ主トシテ公共ノ利益ノ爲メニスルモノハ公法上ノ行爲トシテ公法ノ適用ヲ受クヘキモノト謂フヘキナリ彼ノ煙草官營、鹽專賣ノ如キハ前者ニ屬シ郵便電信ノ事業ノ如キハ後者ニ屬ス是等ノ事業ハ皆孰レモ國家ノ事業ニ屬シ國家カ獨占スルノ點ニ於テハ彼是同一ナリトスルモノ前者ハ主トシテ國家財政上ノ收利ヲ目的トシ國家ノ私經濟的利益ノ爲メニスルモノニシテ後者ハ直接ニ公益ノ爲メニスルモノナレハ之ヲ同一視スヘキニ非サルナリ今本件火藥製造事業ニ付テ之ヲ見ルニ砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器ヲ製造修理シ及ヒ海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所ニシテ板橋火藥製造所ハ東京砲兵工廠ノ一部ニ屬スルコト砲兵工廠條例ノ明記スル所ニシテ又軍用ノ銃砲火藥類ハ官廳ノ委任ヲ受ケタルモノニ非サレハ製造スルヲ得サルモノナルコト銃砲火藥取締法ノ規定スル所ナレハ火藥製造ノ如キハ自ラ煙草又ハ鹽ノ專賣ト其選ヲ異ニシ國家カ軍備ノ充實又ハ戰鬥力ノ準備等所謂軍事的行動ノ一部ニ屬スルモノト認ムヘク之ヲ以テ公共ノ利益ノ爲メニスルモノト看

做スヘクシテ單ニ國家カ財産上ノ利益ノ爲メニスルモノニ非サルヤ明ケン然ハ則チ本件板橋火藥製造所ノ火藥製造事業ハ乃チ公法上ノ行爲ニシテ所員カ火藥製造ニ從事スルハ國家ノ一機關トシテ行動スルモノニ外ナラサルカ故ニ其行爲ニ付キ個人ニ損害ヲ加ヘタリトスルモ國家ハ法令ニ特別ノ規定アラサル限り私法上ノ責任ヲ負フヘキモノニ非サルナリ原判決カ或ハ國家自存ノ目的上國家自身ノ行爲ヲ必要トスルカ如キ行爲ハ公法的行爲ナリト云ヒ又或ハ國法カ國家ハ權力ノ主體トシテ行動スヘキモノトセルトキハ之ニ關スル國家ノ行爲ハ公法上ノ行爲ナリト説示セルハ其前後ノ理由聊カ明瞭ヲ缺クノ嫌アルヘシトハ云ヘ本件火藥製造ノ事業ヲ以テ公法上ノ行爲トシテ國家カ私法的關係ニ服スヘキモノニ非ストセルハ相當ニシテ本論旨ハ孰レモ其理由ナシ上來説明スルカ如ク本件上告ハ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條第七十七條ニ依リ主文ノ如ク判決スルモノナリ

○公務執行妨害傷害ノ件(大審院大正八年(九)第二五號破毀)

刑法第二百三十四條
第二百三十三條
第二百三十四條

【被告人】 元木 隆 成 【辯護人】 島田 武夫
【第一審】 德島區裁判所 【第二審】 德島地方裁判所
○判決要旨
一郵便電信及ヒ電話官署ニ於ケル現業傭人ハ官制職制又ハ其他ノ法令上職員ト

稱スルヲ得サルモノトス(判旨第一點)

一現業傭人タル集配人ハ郵便電信及ヒ電話官署現業傭人規程ニ依リ公務ニ從事スル者ナリト雖モ職員ニ非サレハ之ニ對シ暴行ヲ爲シ以テ其公務ノ執行ヲ妨害シタルトキハ刑法第二百三十四條ニ依リ業務妨害罪ヲ構成スルモ同第九十五條ノ公務執行暴害罪ヲ構成セサルモノトス(同上)

【參照】 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ強迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(刑法第九十五條)
威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ(刑法第二百三十三條)

○事實及判決

右公務執行妨害傷害被告事件ニ付キ大正七年十二月二十日德島地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ
原判決ヲ破毀ス
被告ヲ懲役三月ニ處ス
公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トス

○理 由

辯護人島田武夫上告趣意書第一點公務員トハ「官吏公吏法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ」(刑法第七條)郵便集配人カ官吏ニアラサルハ論ヲ俟タス然ラハ法令ニヨリ公務ニ從事スル職員ナリヤ否ヤヲ按スルニ(一)刑法第七條ニ所謂法令トハ法律命令ノ汎稱ニシテ抽象的一般的拘束力ヲ有スル國家機關若クハ公共團體ノ意思表示ヲ云ヒ公務員トハ法令ニ依ル官制上ノ職務ヲ有スル者ヲ云フ然ルニ郵便集配人カ郵便物ノ集配事務ニ從事スルハ明治四十二年十二月

現業傭人ノ性質

十一日公達七百八十六號郵便電信官署現業備人規程ニヨリテ事務ニ従事スルモノニシテ同規程ハ便宜上定メラレタル官廳内部ノ事務規程ニ過キス法令ヲ以テ目スヘキモノニアラス從テ郵便集配人ハ法令ニ依ル官制上ノ職務ヲ有スルモノト云フヘカラス故ニ同規程ニヨリテ郵便事務ニ従事スル郵便集配人ハ公務員ニアラス(二)假リニ百歩ヲ讓リテ右郵便電信及電話官署現業備人規程ヲ法令ナリト假定スルモ尙郵便集配人ハ公務員ニアラス蓋シ法令ニヨリテ事務ニ干與スル從業員ノ職務カ機械的作業ニ過キスシテ毫モ意識的主體ト行動スルモノニアラサルトキハ其職務ハ電氣力若クハ機械力ノ作用ト同一ニシテ之ヲ以テ公務ト云フヘカラス前記現業備人規程ハ機械的作業ニ従事スル現業備人ニ關スル規程ニシテ同第一條ハ「郵便電信及電話官署ニ現業備人ヲ置ク」ト規定シ同第二條ハ「現業備人トハ集配人遞送人郵便夫馭者馬丁水夫火夫及ヒ信使ヲ云フ」ト規定シ集配人ヲ馭者馬丁ト同一視シ意識的主體トシテ行動スルモノニアラサルコトヲ聲明ス同第三條ニ集配人ノ職務ヲ定ムルモ何レモ機械的作業ニアラサルハナシ尙集配人ノ採用ニ關シテモ集配人ハ滿十五年以上五十年以下ノ男子タラハ足ル資格試験ヲ須キス成年ニ達スルヲ要セス集配人ノ事務ハ徵發令ニ依リテ徵發サレタル入夫ト選フ所ナシ之ヲ公務員ト云フ能ハサル憲ニ明瞭ナリ郵便法第四條五條六條ニ「公務ノ執行中ノ集配人」ナル文字アルモ是亦前記機械的現象ヲ指示セルニ外ナラスシテ郵便集配人ヲ以テ公務員トナス趣意ニアラス原判決ハ其理由ノ部ニ於テ「被告ハ大正七年九月八日德島郵便局所屬郵便集配人濱銀次郎カ德島市太工島方面ノ郵便物配達ニ従事中云云同人ヲシテ右一般郵便物ノ配達ヲ爲スコトハ能サルニ至ラシメ職務ノ執行ヲ妨害シタリ」ト判示シ刑法第九十五條第一項ヲ適用處斷シタリ然レトモ刑法第九十五條第一項ノ規定スル犯罪ノ被害主體ハ公務員タルコトヲ要ス而シテ本件被害者濱銀次郎ハ德島郵便局所屬郵便集配人ニシテ公務員ニアラス從テ本件被告ノ所爲ハ公務執行妨害罪ヲ構成スヘキ限リニアラス原判決ハ爰點ニ於テ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○按スルニ刑法ニ所謂公務員ハ法令ニ依リ公務ニ従事スル職員ヲ云フモノナルヲ以テ假令法令ニ依リ公務ニ従事スルモノト雖モ職員ト稱スルヲ得サルモノハ公務員ニアラス郵便電信及電話官署ニ於ケル現業備人ノ如キハ官制職制又ハ其ノ他ノ法令上職員ト稱スルモノトハ其撰ヲ異ニシ職工人夫等ト何等擇フ所ナキコト郵便

電信及電話官署現業備人規程ノ趣旨ニ徴シ明瞭ニシテ之ヲ職員ト稱スルヲ得サルモノトス從テ現業備人タル集配人ハ該規程ニ依リ公務ニ従事スルモノナリト雖モ亦タ以テ職員ト云フヲ得サルカ故ニ集配人ニ對シ暴行ヲ爲シテ以テ其公務ノ執行ヲ妨害スルトキハ刑法第二百三十四條ニ依リ業務妨害罪ヲ構成スルモ同第九十五條ノ犯罪タル公務執行妨害罪ヲ構成セス然ルニ原判決ハ郵便配達ニ従事中ナル本件集配人ニ對シ暴行ヲ爲シテ其公務ノ執行ヲ妨害シタル所爲ニ對シ同條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ原判決ハ之レカ爲メ全部破毀ヲ免レス而シテ右ノ理由ニ依リ原判決ヲ破毀スル以上ハ被告ノ所爲カ刑法第九十五條第一項ノ罪ヲ構成セサルコトヲ主張スル第二點ニ付テハ說明ノ要ナキヲ以テ之ヲ省略ス

第三點原判決ハ其理由ノ部ニ於テ「被告ハ云云銀次郎ヲ捕ヘテ該郵便物ノ引渡ヲ求メ詰問ノ上數回銀次郎ニ蹴リ掛リ且同人ヲ突キタルニ因リ同人ハ同所路傍ノ溝ノ上ニ倒レ溝石ニテ其臀部ニ治癒一週間餘ヲ要スル創傷ヲ負ヒ云云」ト判示ス因是觀之銀次郎カ其臀部ニ治癒一週間餘ヲ要スル創傷ヲ負ヒタルハ同人カ偶々溝ノ上ニ倒レ溝石ニテ臀部ヲ打チタル結果ノミ銀次郎ニシテ反對ノ路傍若ハ路上ニ倒レタランニハ斯クノ如キ創傷ヲ負ハサリシナルヘシ故ニ被告カ銀次郎ヲ蹴リ且同人ヲ突キタル行爲ニ付テハ被告固ヨリ其刑責ヲ負フヘキモノナリト雖モ銀次郎ノ創傷ハ被告カ同人ヲ突キタル行爲トノ間ニハ相當因果關係ナシ從テ創傷ノ結果ニ付テハ刑責ヲ負フヘキ理由ナシ蓋シ銀次郎ノ創傷ハ偶然ノ事故ニ過キサレハナリ然ルニ原判決カ創傷ノ結果ヲ被告ノ責ニ歸シ刑法第三百四條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判示事實ニ依レハ被告ニ於テ被害者ニ對シ判示暴行ヲ爲シタルカ爲メ被害者ハ路傍溝石ノ上ニ倒レ其結果負傷シタルモノナレハ被告ノ暴行ト負傷トノ間ニ相當因果關係アルコト論ヲ竣タス從テ原判決ノ擬律ハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第四點刑事訴訟法第二百七條第一項ハ「證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ以テ呼出スヘシ」ト規定ス故ニ二十四時間ノ猶豫ナキ呼出狀ノ送達ハ無効ニシテ無効ノ呼出狀ニヨリ出頭シタル證言亦無効ト云フヘシ論者

或ハ曰ハン呼出狀ノ送達無効ナリトスルモ異議ナクシテ出頭シタル證人ノ證言ハ無効ニアラスト然レトモ刑事訴訟法第二百七十七條第一項ノ猶豫期間ハ證人ヲシテ徐ロニ熟考ノ餘地ヲ與ヘ眞實ナル證言ヲナサシメンカ爲メ認メラレタル制度ナルカ故ニ此ノ猶豫ヲ與ヘスシテ呼出シタル證人ノ證言ハ證人カ其呼出ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトスルモ尙事實ニ吻合セサルモノト云フヘク當然無効ナリ第一審判決並ニ原判決ハ證人山形晴一ノ證言ヲ證據ニ採用ス仍テ記録ヲ閱スルニ大正七年十月十日午前八時ニ出頭ヲ命シタル同人ニ對スル呼出狀ハ同年同月九日午前十一時三十分ニ送達セラレ同人ハ同年同月十日午前八時開廷ノ公判ニ於テ證言セルモノナルカ故ニ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間法定ノ猶豫期間ナシ故ニ同人ノ證言ハ無効ナリト云フヘシ然ルニ第一審ニ原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニシテ原判決ハ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在レトモ○證人ニシテ猶豫期間ヲ與ヘラレサル訊問ヲ甘諾シテ之ニ應答シタルトキハ其證言ハ無効ニアラサルコトハ刑事訴訟法第二百七十七條第二項ノ法意ニ徴スルモ明瞭ナリ所論證人ハ所論ノ如キ呼出狀ヲ受取り異議ヲ申立テスシテ判示證言ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第五點第一審判決ハ其證據說明ノ部ニ於テ「醫師山内谷五郎ノ診斷書中同月九日再診スルニ銀次郎ノ判示部位ニ判示治癒數日ヲ要スル傷害アル旨記載」アリト判示スルモ右診斷書ニハ醫學士山内谷五郎ノ署名捺印アリ而シテ醫師法第一條ニヨレハ醫學士ト雖モ内務大臣ノ免許ヲ受ケサレハ醫師タルコトヲ得ス免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲スモノハ同第十一條ニ依リテ處罰セラル從テ醫師ニアラスシテ診斷書ヲ作ル能ハス第一審判決ハ診斷書ニアラサルモノヲ診斷書トシテ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルカ故ニ原判決ハ須ラク第一審判決ヲ取消シ更ニ判決スヘキ筋合ナルニ事茲ニ出テサル原判決ハ不法ニシテ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在レトモ○第一審判決ノ證據說明ニ所論ノ如キ瑕疵アリトスルモ同判決取消ノ理由ト爲ラサルノミナラス山内谷五郎ノ醫師ナルコトハ所論診斷書自體ニ依リ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第六點本件ハ年少氣鋭ナル被告カ郵便集配人ノ不當ナル處置ニ憤慨シ之ニ暴行ヲ加ヘタリト云フ徵罪ナリ被告ハ其業務ニ精勤ニシテ元來相當ノ教育アリ宜哉本件發生以來大ニ悔悟シ至心ノ情著シ被告ニ對シテハ刑ノ執行猶豫ノ恩典ヲ與ヘラレ

シコトヲ訴フト云フニ在レトモ○本件ニ於テハ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アルコトヲ認ムルヲ得サルヲ以テ本論旨ハ之ヲ採用セス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照ラスニ業務妨害ノ所爲ハ刑法第二百三十四條第二百三十三條ニ傷害ノ行爲ハ同第二百四條ニ該當シ一行爲ニ罪名ニ觸ルルヲ以テ同第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ傷害罪ノ刑ニ從ヒ徵役刑ヲ選擇シ被告ヲ懲役三月ニ處シ公訴裁判費用ハ刑事訴訟法第二百一條第一項ニ依リ被告ヲシテ負擔セシムヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事矢追秀作干與大正八年四月二日大審院第三刑事部

○收賄贈賄被告事件 (大審院大正十二年(九)第八〇八號 同年七月二十六日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被 告 人

【第一審】 名古屋地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判決要旨

一 遞信局技手タル者カ經理營繕部員トシテ遞信局所屬廳舎等ノ建築修繕工事ニ關スル設計監督及検査等ノ事務ヲ擔任スル場合ニ於テ遞信局長及請負人間ノ

遞信局技手ノ職務ト遞信部内共濟組合ノ工事ノ監督

契約ニ依リ逓信局所屬應舎模様替及修繕工事ニ準シ施行スヘキ逓信部内職員共濟組合診療所ノ家屋模様替修繕ノ請負工事ノ監督検査ヲ爲スコトハ其ノ職務ノ範圍ニ屬シ監督検査ニ對スル謝禮トシテ請負人ヨリ財物ヲ收受スル行爲ハ收賄罪ヲ構成スルモノトス

【參照】明治四十二年勅令第五百一十一號第一條 逓信部内ノ通信手及雇員以下ノ現業員ニシテ逓信大臣ノ指定スルモノハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救済ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

同第三條 逓信大臣ハ逓信部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得大正九年十月逓信省令第七號第五十二條 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救済ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

大正十一年一月逓信省公達第一七一條第一條逓信部内職員共濟組合規則第五十二條ノ規定ニ依リ組合員ノ傷疾又ハ疾病ノ診療治療ヲ爲ス目的ヲ以テ診療所ヲ設ク但シ必要ナル地ニ診療所支所ヲ設クルコトヲ得診療所ニ於テ前項ノ目的ニ支障ナキ場合ニ於テハ組合員ノ家族並組合員以外ノ部内職員及其家族ノ診療ヲ爲スコトヲ得同第三條 逓信局長ハ各其ノ所管區域内ニ於ケル診療所ノ事務ヲ掌理ス
刑法第九十七條第一項 公務員又ハ仲裁人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ收賄ノ點ニ刑法第九十七條第一項ヲ適用シタリ

被告米助勝治郎ハ執レモ逓信局技手トシテ名古屋逓信局ニ勤務シ同局經理課營繕部員トシテ名古屋市内ニ於ケル同局所屬應舎等ノ建築修繕工事ニ關スル設計監督及検査等ノ事務ヲ擔任シ被告兼次郎ハ同局指定ノ土木建築請負業者ナル處
第一被告米助ハ意思繼續ノ上前記肩書ノ自宅ニ於テ

一、(略ス)

二、(略ス)

三、被告兼次郎カ名古屋逓信局長ヨリ大正十一年五月五日請負ヒタル逓信局舎模様替及修繕工事ニ準シ施行サルヘキ共濟組合診療所ノ家屋模様替修繕工事(竣工期限大正十一年七月三十一日請負金額三千百六拾圓)ニ付被告米助カ同局長ノ命ニ依リ技手トシテ爲シタル監督検査等ノ職務行爲ニ對スル謝禮ノ意味ヲ以テ同年七月初旬提供サレタル金二十圓ヲ各其ノ意ヲ諒シテ交付ヲ受ケ因テ自己ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ執レモ之ヲ費消シ

第二(略ス)

第三被告兼次郎ハ前記共濟組合診療所ノ家屋模様替修繕工事ヲ請負ヒタルモノナル處該工事ノ監督検査ヲ爲シタル同局經理課營繕部員ニシテ逓信局技手タル被告米助ノ右職務ニ關シ謝禮ノ趣旨ヲ以テ大正十一年七月初旬頃前被告米助ノ肩書住所ニ於テ金二十圓ヲ同人ニ交付シ因テ贈賄シタリ

○上告理由

被告米助上告趣意書ニ縷述スル所ノ要旨ハ第一被告入ハ大正十一年五月五日名古屋逓信局診療所家屋模様替工事ヲ請負ヒタル兼次郎ヨリ同年七月五日ヨリ八日迄ノ間ニ金二十圓ヲ收賄シタル事實ヲ認定セラレタルモ元來右診療所工事ハ國家事務ニ非ス被告人モ亦官吏タル逓信局技手トシテ職務上其ノ監督ヲ爲シタルニ非スシテ其ノ監督タルヤ單ニ便宜上上官ノ命令ニ依テ個人タル資格ニ於テ之ヲ爲シタルニ過キス故ニ被告人ノ行爲ハ刑法第九十七條第一項ノ收賄罪ヲ構成セス
被告兼次郎辯護人山田鐵夫加藤正衛上告趣意書第一點原判決ニ依レハ被告兼次郎ハ共濟組合診療所ノ修繕工事ヲ請負ヒ其

逓信局技手ノ職務ト逓信部内共濟組合ノ工事ノ監督

監督検査ヲ爲シタル逓信局技手タル相被告米助ノ職務ニ關シ贈賄シタル旨判示セラレタルモ右共濟組合ナルモノハ同判決法律適用ノ部ニ自ラ判斷シタルカ如ク逓信省ノ行政事務ノ一分課ニ非ス又其ノ他ノ國家機關ノ一部ニモ非サルコト勿論ナレハ該組合ノ事務モ亦國家事務ニ非スシテ純然タル私法上ノ組合團體ノ事務ニ過キサルコト炳カナリトス而シテ凡ソ官吏ハ各所管行政事務ヲ掌ル職責ヲ有ス從テ假令官吏カ一人ト對當ノ地位ニ立テテ私法上ノ事務ニ關與スルモ苟モ其私法上ノ事務カ所管行政事務ノ範圍ニ屬スル以上ハ等シク國家ノ事務ニシテ換言スレハ事務其ノモノハ私法上ノ行為ヲ目的トスルモノナルモ其事務タルヤ所謂國家ノ公務ト云フニ何等ノ異論アルコトナシ之ニ反シ若シ其ノ事務カ純然タル私法團體ノ事務ニシテ國家ノ事務ノ範圍ニ屬セサル以上ハ假令官吏タル資格ヲ有スル者カ其ノ事務ニ從事スルモ之レカ爲メ其事務公務ニ變スヘクモ非ス即チ一個人ノ事務ハ徹頭徹尾一個人ノ事務ニシテ其ノ取扱者ノ官吏タルト否トニヨリ其性質ヲ變スヘキモノニ非サルヘシ今本件事案ニ付之ヲ看ルニ相被告米助ハ名古屋逓信局技手トシテ官吏タル資格ヲ有スルモ共濟組合診療所ノ事務ハ前記原判決ノ如ク國家ノ事務ニ非スシテ純然タル共濟組合ナル私法上ノ團體ノ一事務ト解スルノ外ナシ然ラハ假令被告米助カ該診療所ノ工事ノ監督ヲ爲シタリトスルモ其ハ畢竟官吏タル地位ニアル相被告米助カ官吏本來ノ職務外ノ事務ニ個人ノ資格ヲ以テ從事シタルニ過スシテ官吏ノ職務ニ從事シタルモノト解スルヲ得サルコト前段ノ所論ニ依リ明カナリ又共濟組合ノ事務ハ公務ニ非サルコト前段說示ノ如クナルカ故ニ法令ニ依リ公務ニ從事スル所謂公務員トモ云フヲ得サルコト勿論ナリトス夫レ然リ然ラハ假令被告兼次郎カ原判決ノ如ク共濟組合診療所ノ工事ノ監督ニ從事シタル相被告米助ノ職務ニ關シ金品ヲ贈與シタリトスルモ公務員タル相被告米助ノ職務ニ關シ贈賄シタリト云フヲ得サルコト當然ナリトス然ルニ原判決カ被告兼次郎ノ所爲ニ付贈賄罪ヲ以テ問擬シタルハ結局法律ノ適用ヲ誤リタル失當アルモノト信スルヲ以テ原判決ハ破毀ヲ免カレサルモノト信ス

同第三點收賄罪ニ於ケル公務員ノ職務ハ法令上職務權限カ定メラレタル場合ナラサルヘカラス然ルニ相被告米助ハ假令百歩ヲ讓リ共濟組合診療所ノ工事監督ノ特別命令ヲ受ケ之レカ監督検査ヲ爲スヘキ職務ヲ有シタリトスルモ該共濟組合ノ工

事ニ關スル監督検査ヲ爲スヘキ職務權限ヲ定タル法令ナルモノアルコトナシ果シテ然ラハ從令被告米助カ該工事ノ監督検査ヲ爲スヘキ職務ヲ有シ其ノ職務ニ關シ金品ノ贈與ヲ受ケタリトスルモ法律上收賄罪ノ成立スル謂ハレナケレハ從テ被告兼次郎ニ對シテモ亦贈賄罪ノ成立スヘキ理由ナシ要スルニ原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル失當アルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト信ス

○判決理由

逓信部内職員共濟組合ハ逓信部内ノ通信手及雇員以下ノ現業員ニシテ逓信大臣ノ指定スルモノノ相互救濟ヲ目的トシテ組織セラルルモノニシテ（明治四十二年勅令第五百一十一號第一條）又同組合ノ診療所ハ組合ノ附帶事業トシテ組合員ノ保護救濟ヲ目的トシテ設置セラレタルモノニ繋リ（大正九年十月逓信省令第一〇七號第五十二條大正十一年一月逓信省公達第七七號第一條）右共濟組合カ國家機關ノ一部ニ非サルコト竝ニ其ノ組合ノ事務カ國家事務ニ非サルコトハ所論ノ如シト雖モ共濟組合ハ逓信大臣ノ監督ニ屬シ（前掲逓信省令第一條）又逓信大臣ハ逓信省内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトノ權限ヲ有シ（前掲勅令第三條）之ニ因テ逓信局長ハ其管轄區域内ノ診療所ノ事務ヲ掌理スルニ至ルモノナルヲ以テ（前掲逓信省公達第二條）逓信局長ハ國家ニ對シ如上ノ共濟組合ノ事務ヲ掌理スル職務ヲ有スルモノト謂フヘク又之ト同時ニ其ノ事務ヲ掌理スルコトハ畢竟逓信大臣ニ屬スル監督權ノ行使ヲ實現セシムル所以ニ外ナラサルカ故ニ逓信局長カ共濟組合診療所ノ家屋模様替修繕工事ニ付請負人トノ間ニ請負契約ヲ締結シ必要ニ應ジテ工事ヲ監督検査スルハ是亦其逓信局長タル資格ニ基キタル職務上ノ行為ニシテ其監督検査ニ關シテハ局長カ親シク監督検査ノ任ニ當ルト若ハ下僚タル技手ヲシテ其ノ局ニ當ラシムルトハ等シク其ノ權限内ニ屬スル事項ナリトス原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告人米助ハ逓信局技手トシテ名古屋逓信局ニ勤務シ同局經理營繕部員トシテ名古屋市内ニ於ケル同局所屬廳舎ノ建築修繕工事ニ關スル設計監督及検査等ノ事務ヲ擔任シ居タルモノナルヲ以テ原判決ノ判示第一ノ三及第三ニ掲クルカ如ク被告兼次郎カ名古屋逓信局長ヨリ逓信局舎模様替及修繕工事ニ準シ施行サルヘキ共濟組合診療所ノ家屋模様替修繕工事ヲ請負ヒタルニ際シ被告

年次目録

逓信局技手ノ職務ト逓信部内共済組合ノ工事ノ監督

八二六

米助ニ於テ同局長ノ命ニ依リ技手トシテ其ノ工事ノ監督検査ヲ爲スコトハ技手タル米助ノ職務行爲ニ屬スルモノト謂フヘク其ノ監督検査等ノ行爲ニ對スル謝禮ノ意味ヲ以テ兼次郎ヨリ米助ニ金二十圓ヲ交付シ米助ハ之ヲ收受シタルコトハ原判決ノ認ムル所ナルヲ以テ米助ノ行爲ハ刑法第九十八條第一項ノ收賄罪ヲ兼次郎ノ行爲ハ同法第九十八條第一項ノ贈賄罪ヲ構成スルコト疑ヲ容レズ論旨ハ理由ナシ

民事

件名	判示事項	裁判月日	番號	頁數
明治三十二年 損害賠償ノ件 電線架設者ノ責任	電線架設者ノ責任	明治三十二年十二月七日	一九一號	七七五頁
明治三十八年 所有權確認並占有回收請求ノ件 上告ノ理由タル事項ノ代表者	上告ノ理由タル事項ノ代表者	明治三十八年二月一日	(オ) 六三三號	七九六頁
明治三十九年 保證債務履行請求ノ件 債務免除ノ表意方法、辨濟ノ提供	債務免除ノ表意方法、辨濟ノ提供	明治三十九年二月十三日	(オ) 五六七號	五九〇頁
明治四十年 株金拂込請求ノ件 強制執行異議ノ件 郵便物ノ消印日附ニ關スル證明 送達ノ手續ニ對スル異議	郵便物ノ消印日附ニ關スル證明 送達ノ手續ニ對スル異議	明治四十年二月二十六日 明治四十年八月二十日	(オ) 五四九號 (オ) 三一〇號	七四六頁 四二頁
明治四十三年 損害賠償請求ノ件 大正五年	國家ノ私法的行爲ト公法上ノ行爲、火藥製造行爲ニ因ル加害ト國家ノ責任	明治四十三年三月二日	(オ) 二〇〇號	八一頁
電話名義變更手續請求ノ件 電話使用權ノ賣買ト賣主ノ義務及其履行	電話使用權ノ賣買ト賣主ノ義務及其履行	大正五年九月二十七日	(オ) 三八九號	三九八頁

大正六年

電話名義書換請求ノ件
 電話加入權賣買無効確認並ニ電話加入名義變更手續請求ノ件
 債權差押申請事件ノ決定ニ對スル再抗告ノ件
 電話名義變更手續請求ノ件

大正七年

電話加入名義變更請求ノ件
 電話加入權名義變更請求ノ件
 小作米請求ノ件
 強制執行異議ノ件
 手附金返還請求ノ件

大正八年

土地買戻請求ノ件

電話加入權賣買契約無効確認並ニ電話加入名義變更手續請求ノ件
 電話加入名義書換請求ノ件

大正十年

衆議院議員選舉無効請求ノ件
 衆議院議員當選異議ノ件
 損害賠償請求ノ件
 衆議院議員當選無効ノ件
 電話加入權名義變更手續請求主參加ノ件
 文書偽造行使詐欺等ノ件ニ對スル附帶私訴ノ件

電話加入權ノ讓渡性及對抗要件 法律ニ違背シタル裁判ノ効力 電話加入權讓渡ノ制限 公衆ノ電話利用權享有ノ要素電話利用權ノ性質、電話利用權ノ賣買ノ効力意思ノ陳述ニ方式ヲ要スル場合ノ判決確定ノ効果、電話加入名義變更ノ判決確定ノ効果	大正六年二月五日 大正六年六月七日 大正六年九月六日 大正六年十二月十二日	(オ) (オ) (ク) (オ)	六七〇號 六六四號 二二三號 八一三號	四〇〇頁 四〇五頁 三七八頁 三七一頁
債權者ノ遲滯ト債權者ノ目的物ノ供託 民法第八百四條ノ適用範圍、妻ニ代理權アリト信スヘキ正當ノ理由、民法第九十二條ノ適用範圍、無記名債權以外ノ債權ト即時効ノ適用、電話加入權ト民法第九十二條準用ノ範圍 民事訴訟法第四百五條ノ適用 裁判外ノ和解ト強制執行ノ効力和解契約ヲ廢罷スル契約ノ効力 電話開通ノ讓渡性電話ノ開通ヲ條件トスル電話使用權ノ讓渡	大正七年三月二十日 大正七年四月十三日 大正七年六月五日 大正七年七月十六日 大正七年九月二十七日	(オ) (オ) (オ) (オ) (オ)	一、〇五九號 二二五號 二四六號 三三四號 六九九號	四〇七頁 四一〇頁 四六頁 四一四頁 四一九頁

辨濟ノ爲郵便小爲替券送附ノ効果 電話加入權回復ノ方法民法第九十二條ノ適用 請求ニ關スル異議ノ事由、請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シ得ル時期請求ニ關スル異議ノ訴ト債權者ノ實體上ノ權利	大正八年七月十五日 大正八年十月二日 大正八年十一月二十九日	(オ) (オ) (オ)	五一四號 四五五號 八四三號	六〇七頁 四二五頁 四三〇頁
衆議院議員選舉法第十三條ノ解釋、會社ノ支配人ノ權限 郵便切手賣捌人ノ性質、郵便切手類買受組合總代人ノ性質、收入印紙賣捌人及同買受組合總代人ノ性質 故意過失アリト推定シ得ル場合 有効投票ノ判定方、氏又ハ名ノ記載シタル投票ノ効力、鐵道船舶郵便法ニヨル運送業者ノ性質、衆議院議員選舉法第十三條二項ノ解釋、衆議院議員選舉法第四十四條ノ解釋 電話加入名義者ヨリ加入權ヲ取得シタル者數人アル場合ノ關係、電話加入權取得ノ對抗要件	大正十年一月十九日 大正十年二月二十五日 大正十年四月四日 大正十年六月二十二日 大正十年七月八日	(オ) (オ) (オ) (オ) (オ)	八〇一號 八五三號 一三七號 一一四號 一六六號	一七頁 七一〇頁 四三四頁 一〇七頁 四三六頁
電話加入權取得ノ第三者ニ對スル對抗要件及加入名義變更手續ノ要件電話加入權取得ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得サル場合	大正十年八月十日	(オ)	八五七號	三八一頁

電話使用權名義變更手續請求ノ件

大正十一年

電話加入名義變更請求ノ件

大正十五年

電話加入權名義變更請求事件

昭和二年

電話名義變更請求事件

賣買代金請求事件

電話加入權確認並電話加入名義書換請求事件

電話加入權名義變更請求事件

損害賠償請求事件

昭和三年

電話加入權確認並電話加入名義書換請求事件

當事者本人ノ訊問ヲ爲ス場合、利息制限法ノ適用範圍

大正十年十一月二十八日

(オ)

六九二號

四四三頁

賣渡者ト第三者トノ關係

大正十一年六月三日

(オ)

三〇〇號

四五六頁

電話加入權ノ讓渡ト其ノ加入名義變更ヲ求ムル權利

大正十五年六月四日

(オ)

七九八號

三九四頁

讓渡禁止ノ假處分ト其目的物ニ對スル強制執行ノ効力

昭和二年四月十二日

(オ)

一二四號

三四三頁

讓渡禁止期間内ニ爲サレタル電話加入權ノ差押ト該期間經過後發セラレタル讓渡命令ノ効力

昭和二年四月十二日

(オ)

一、二二六號

六八八頁

讓渡禁止期間内ニ爲サレタル電話加入權ノ差押ト該期間經過後發セラレタル讓渡命令ノ効力

昭和二年十月十一日

(オ)

五七四號

三四八頁

大正十二年逓信省令第五十號電話至急開通規則第十六條第十八條ノ意義

昭和二年十月十五日

(オ)

九三一號

五一二頁

郵便法第三十三條第一項第一號ニ所謂亡失ノ意義

昭和二年十一月十七日

(オ)

八五五號

六八頁

不當利得返還請求事件

昭和四年

電話加入權名義書換手續請求事件

供託物下附同意請求事件

昭和五年

電話加入權差押命令申請ノ執行方法ニ對スル異議申立却下決定ニ對スル抗告事件

保證金債務履行請求事件

電話加入權確認並電話加入權名義書替請求事件

處分禁止期間内ノ電話加入權ノ競賣

昭和三年十一月廿一日

(オ)

一七四號

五一六頁

讓渡禁止ノ假處分ト強制執行

昭和四年四月三十日

(オ)

一、三三〇號

四七二頁

保證還付ノ同意ヲ求ムル訴

昭和四年五月一日

(オ)

一四六號

四八三頁

至急開通電話加入權ノ差押

昭和五年二月十四日

(ク)

六九五號

三五四頁

敷金ト延滞賃料

昭和五年三月十日

(オ)

一、五一九號

四九三頁

電話加入權名義書替

昭和五年三月二十七日

(オ)

一、二一五號

五〇二頁

刑 事

件

名

判

示

事

項

裁月判日

番

號

頁數

明治二十八年

郵便物窃盜ノ件

郵便物隠藏ノ意義

明治二十八年十月七日

一、一六一號

八二頁

私印私書偽造行使詐欺取財ノ件
私書偽造行使詐欺取財ノ件
窃盜ノ件

電報文ヲ偽造シタル所爲ハ私書偽造罪ヲ構成ス
小爲替ノ窃取及行使未遂事後ノ從犯
受託ノ書狀ヲ開披シ送金手形ヲ窃取シタル所爲

明治二十八年十月二十八日
明治二十八年十一月四日
明治二十八年十一月二十一日

一、一〇〇號 三二五頁
九七三號 五五三頁
一、二三〇號 五五六頁

明治二十九年
官文書偽造行使ノ件
監守盜ノ件

郵便電信局雇員ノ監守盜
郵便局ノ集配人ノ資格

明治二十九年一月十六日
明治二十九年三月十二日

一、三七一號 五五七頁
二一〇號 七六九頁

明治三十年

郵便條例違反ノ件
官文書偽造詐欺取財及郵便條例違反抗告ノ件
監守盜ノ件
窃盜等ノ件
窃盜私書偽造行使ノ件

郵便端書ノ再使用
郵便貯金簿冊ノ性質
小包郵便物ノ窃取
三等郵便局長ノ資格
郵便爲替券ノ窃取

明治三十年二月九日
明治三十年四月十九日
明治三十年六月一日
明治三十年六月十日
明治三十年八月十七日

五〇號 七四頁
三號 六一五頁
四四六號 八五頁
五一八號 七七一頁
七一四號 五六二頁

明治三十一年

郵便條例違反ノ件
詐欺取財ノ件

郵便物ヲ受取人ニアラサルモノニ交付郵便物ヲ他人ニ委託シテ送致
郵便不足税ノ騙取、不足税未納税ノ徴收費消

明治三十一年一月二十一日
明治三十一年一月二十五日

明治三十年 第二號 八七頁
明治三十一年 第六號 一三五頁

窃盜ノ件

私書偽造行使ノ件
官印偽造ノ件

郵便切手剥取費消
貯金拂戻請求書偽造
郵便局印ノ偽造

明治三十一年一月三十一日
明治三十一年十一月一日
明治三十一年十一月四日

明治三十年 第一、一九一號 一三七頁
明治三十一年 第九三一號 六一六頁
明治三十一年 第九七九號 七七三頁

明治三十二年

電話線切斷通信妨害ノ件
私書偽造行使詐欺取財ノ件
私書偽造行使ノ件
窃盜及郵便條例違反ノ件

電話線ノ切斷
爲替券窃取及爲替金受領
電報ノ偽造行使
己レニ屬セサル郵便物ノ開封

明治三十二年四月二十五日
明治三十二年五月八日
明治三十二年十一月十四日
明治三十二年十二月八日

四四八號 五二五頁
四九二號 五六〇頁
一、一八八號 二四四頁
一、二一八號 八九頁

明治三十三年

監守盜ノ件
監守盜官文書變造ノ件
窃盜及官文書偽造行使ノ件
官文書偽造行使詐欺取財ノ件
官印偽造行使ノ件

郵便爲替證書ノ性質、郵便爲替證書ノ偽造
雇ノ監守盜ノコト
郵便爲替券窃取及變造行使
電信中繼紙ハ官文書ナリ
郵便局ノ日附印ハ官印ナリ

明治三十三年二月五日
明治三十三年二月二十日
明治三十三年九月二十八日
明治三十三年十一月五日
明治三十三年十一月二十日

(九)一、五七四號 五六九頁
(九)一、五五〇號 六一八頁
(九)九五一號 五七二頁
(九)一、二〇九號 三二九頁
(九)一、一〇三號 七二五頁

明治三十四年
郵便條例違反詐欺取財ノ件
監守盜ノ件
監守盜及私印私書偽造行使ノ件
監守盜私文書偽造行使ノ件
詐欺取財及印紙再貼用ノ件
監守盜詐欺取財窃盜公私文書
公印偽造行使及盗用郵便信書開封ノ件
官文書偽造行使官私印盗用ノ件

郵便爲替證書ノ窃取
證人ノ陳述
郵便物ノ監守盜
郵便物ノ監守盜
電報賴信紙ノ偽造
新舊法ノ比較郵便切手ノ再貼用
沖繩縣間切島吏ノ監守盜
數個ノ犯罪行爲

明治三十四年一月二十二日	(札)一、六四二號	五七四頁
明治三十四年一月二十五日	(札)二八號	一四一頁
明治三十四年二月七日	(札)一、六二九號	一四五頁
明治三十四年二月十九日	(札)一三二號	二四六頁
明治三十四年四月十二日	(札)三八七號	七六頁
明治三十四年五月二十四日	(札)三五二號	一四七頁
明治三十四年六月十四日	(札)八七六號	五七六頁

明治三十五年
詐欺取財及官文書毀棄ノ件
官文書變換行使ノ件
郵便法違反ノ件
私書偽造行使詐欺取財ノ件
監守盜官私文書偽造行使ノ件
監守盜及詐欺取財ノ件
官文書變造行使詐欺取財ノ件
監守盜ノ件

代金引換小包ノ引換代金ノ詐取
電報送達紙偽造行使
信書送達ノ營業
郵便爲替偽造行使詐欺取財
通信事務員ノ管掌事務ノ事
役場書記ノ郵便爲替證書ヲ窃取シタル所爲
郵便貯金通帳ノ變造行使詐欺取財
通信事務員ノ小爲替證書ノ窃取

明治三十五年一月十六日	(札)一、七九九號	一五二頁
明治三十五年二月二十日	(札)一〇五號	三三二頁
明治三十五年三月二十日	(札)三二八號	一頁
明治三十五年六月十二日	(札)九六〇號	五七九頁
明治三十五年七月七日	(札)一、〇八六號	七七七頁
明治三十五年十一月十日	(札)一、六一六號	五八二頁
明治三十五年十一月二十四日	(札)一、五六九號	六二一頁
明治三十五年十二月八日	(札)九二〇號	七八一頁

明治三十六年

窃盜等ノ件
監守盜ノ件
監守盜委託金費消等ノ件
監守盜官文書偽造行使官印盗用私印私書偽造行使ノ件
郵便法違反ノ件
官文書偽造行使私書偽造行使及監守盜等ノ件
官文書變造行使詐欺取財ノ件
郵便法違反ノ件
官文書偽造行使官印盗用及窃盜ノ件

通信事務員ノ資格
監守盜ノ性質
新舊法ノ比照處斷
雇員ノ身分
通信阻害ノ目的
教唆、監守盜教唆者ノ責任
官ノ文書ノ意義
葉書ノ性質
權利義務ニ關スル證書ノ偽造、郵便取扱所ト取扱人ノ事務

明治三十六年一月十三日	明治三十五年(札)一、八九五號	七八四頁
明治三十六年一月二十日	明治三十五年(札)三三號	一五八頁
明治三十六年二月三日	明治三十五年(札)一六號	二四一頁
明治三十六年二月十六日	明治三十五年(札)一、三六四號	七八六頁
明治三十六年二月二十四日	明治三十五年(札)一、五〇三號	九二頁
明治三十六年三月十日	明治三十六年(札)四八號	五八四頁
明治三十六年七月三日	明治三十六年(札)一、三四四號	六二四頁
明治三十六年十月二日	明治三十六年(札)一、六九六號	一六〇頁
明治三十六年十月九日	明治三十六年(札)一、七六三號	六二七頁

明治三十七年

官文書偽造行使詐欺取財未遂ノ件
官印偽造行使印紙知情行使等ノ件
監守盜官印盗用官文書偽造行使等ノ件
郵便法違反ノ件

電報賴信紙ハ官文書ナリ
消印偽造行使判決ハ判決書作成ト共ニ成立
告發調書ノ作成、通信事務員ノ任命、公判ニ於ケル被告供述ノ無効
管轄違ノ言渡
郵便法第二條ノ信書

明治三十七年一月二十一日	(札)二、六〇七號	三三七頁
明治三十七年五月五日	(札)七九一號	七二八頁
明治三十七年六月十日	(札)一、〇一一號	七九一頁
明治三十七年十一月二十八日	(札)二、一六〇號	三頁

郵便法違反ノ件	封皮ノ有無、開封ハ信書タル性質ニ影響ナシ	明治三十七年十二月八日	(礼)三二八七號	八頁
明治三十九年	國ノ代表者ニ對スル命令ノ適用	明治三十九年二月九日	明治三十八年(礼)一、五五五號	八〇二頁
明治四十年	官文書偽造行使ノ件	明治四十年六月四日	(礼)四七七號	五九五頁
	郵便法違反官文書偽造行使監守盜ノ件	明治四十年七月五日	(礼)六四七號	六三二頁
	官文書偽造變造行使官印盜用及監守盜ノ件	明治四十年七月五日	(礼)六五一號	五九七頁
	官印盜用官文書偽造行使窃盜ノ件	明治四十年七月二十三日	(礼)六六六號	八〇九頁
	郵便法違反ノ件	明治四十年九月二十六日	(礼)八二四號	一四頁
明治四十一年	信書ヲ意義ニ關スル事	明治四十一年四月九日	明治四十一年(礼)二三〇號	六三六頁
	監守盜官印官文書偽造行使官文書毀棄等ノ件	明治四十一年六月二十九日	明治四十一年(礼)五四〇號	六三九頁
	官印盜用官文書偽造行使ノ件	明治四十一年十一月三十日	明治四十年(礼)八五〇號	二四九頁
明治四十二年	電報送金ノ支拂ニ關スル慣例	明治四十二年三月二十九日	(礼)一六六號	一九一頁
	官文書偽造私印私書偽造行使詐欺取財ノ件			
	虚偽電報ノ範圍			

窃盜委託金費消郵便切手再貼用並官印盜用ノ件	郵便日附印ノ効力ニ關スル件	明治四十二年六月二十四日	(礼)五六八號	七四九頁
明治四十三年	賴信紙表示ノ氏名ハ通信文ノ一部、片假名ニテ氏ノミノ表記モ署名ナリ	明治四十三年一月三十一日	(礼)一、九七九號	二五二頁
	郵便爲替證書ノ受領書ハ獨立存在ヲ有ス	明治四十三年五月九日	(礼)六六九號	六〇〇頁
	日附印ノ變造使用ハ偽造トナル	明治四十三年五月十三日	(礼)四六六號	七五一頁
	公文書ノ偽造ト變造ト相違	明治四十三年十一月八日	(礼)一、八〇二號	六四六頁
明治四十五年	連續セル多數人ノ文書偽造ト事實ノ判示方、文書偽造罪ノ法益、電話加入申込原簿ノ性質	明治四十五年二月一日	明治四十四年(礼)二、六九五號	五二七頁
	郵便集配人ノ郵便物窃取ハ窃盜罪ナリ	明治四十五年四月二十六日	(礼)五九四號	一六二頁
	證人資格ナキ者ノ訊問ト費用ノ負擔、他人ノ署名偽造	明治四十五年六月七日	明治四十五年(礼)六三六號	二五六頁
	貯金通帳ノ再度下附ト原通帳ノ効力、無効ノ貯金通帳ニ因ル詐欺罪	大正元年十一月十九日	大正元年(礼)二、〇〇八號	六五四頁
大正二年	電信法第三十三條ノ適用	大正二年二月二十一日	大正元年(礼)二、五三二號	一九四頁
	犯罪手段ノ意義	大正二年三月四日	大正二年(礼)三八號	一六四頁

業務横領並偽證ノ件	郵便法違反ノ件	大正四年	郵便法違反ノ件	大正五年	大正三年四月七日	(札)三八一號	一六九頁
郵便法違反ノ件	大正四年	國家ノ政體變更ト國際法上ノ關係	大正三年六月一日	(札)一、二三一號	八〇頁		
郵便法違反ノ件	大正四年	信書中封入ノ切手紛失ニ付賠償責任ノ件	大正四年四月十七日	(札)五一九號	九五頁		
衆議院議員選舉法違反並電信法違反ノ件	大正四年	虛偽ノ同文電報ト利益ノ意義	大正四年九月二十七日	(札)二、〇五一號	二〇三頁		
電信法違反ノ件	大正四年	虛偽電報ノ着否ト罪	大正四年九月二十七日	(札)一九五四號	二〇八頁		
收入印紙賣捌規則違反ノ件	大正五年	印紙切手賣捌ノ場所及定價ノ件	大正四年十一月五日	(札)二四一六號	六九七頁		
郵便法違反ノ件	大正五年	郵便法第二十條ニ謂フ添狀	大正五年二月二十四日	大正五年(札)二八號	六頁		
詐欺事件ニ附帶スル私訴ノ件	大正六年	電話規則第二十二條ノ法意及適用	大正六年三月三十日	大正六年(札)四〇號	三六〇頁		
電信法違反詐欺ノ件	大正六年	電信法三十三條二項解釋	大正六年八月十一日	大正六年(札)一、六三五號	二、三頁		
官文書偽造行使ノ件	大正六年	郵便局ノ監査票ニ捺捺スル日附印	大正六年八月二十日	大正六年(札)一、六五五號	六五七頁		
窃盜ノ件	大正七年	封緘郵便物封入物件ノ占有喪失占有離脱物ノ横領	大正六年十月十五日	大正六年(札)一、五四四號	一八〇頁		

窃盜ノ件

窃盜ノ件	大正七年	紙幣在中ノ普通郵便物ノ横領	大正七年十一月十九日	(札)二、八八六號	一八五頁		
郵便法違反窃盜文書偽造行使ノ件	大正八年	配達書ノ一部受取證ニ捺印ノ効力	大正八年七月十七日	(札)一、三七七號	九八頁		
公務執行妨害傷害ノ件	大正九年	現業備人ノ性質、業務妨害罪ノ構成	大正八年四月二日	(札)二五號	八一六頁		
業務上横領ノ件	大正九年	公金ノ性質ト郵便局長ノ責任	大正九年一月二十六日	(札)二、七六三號	七六六頁		
當選妨害電信法違反ノ件	大正九年	電信法第三十三條違反事件	大正九年六月七日	(札)一、〇五九號	二一八頁		
窃盜郵便法違反ノ件	大正十一年	郵便物在中ノ爲替券ノ窃取	大正九年六月二十二日	(札)一、一九三號	一〇一頁		
郵便法違反業務上横領被告事件	大正十一年	業務上ノ横領ト通信事務員ノ職務	大正十一年四月七日	大正十一年(札)三四二號	七一七頁		
私文書偽造行使署名偽造使用詐欺未遂電信法違反被告事件	大正十一年	電報頼信紙ニ依ル文書偽造	大正十一年九月二十九日	大正十一年(札)一、二四二號	三二三頁		
郵便法違反被告事件	大正十一年	郵便法第五十三條第一項ニ所謂正當ノ事由ナキコトノ意義	大正十一年十一月十日	大正十一年(札)一、六二〇號	一〇五頁		
公文書偽造行使公文書變造行使業務上横領被告事件	大正十一年	三等郵便局ニ於ケル通信事務員ノ任務ト刑法第五百十六條トノ關係	大正十一年十二月十一日	大正十一年(札)一、三五七號	六七二頁		
大正十二年		收入印紙賣捌規則ニ依ル收入印紙ノ割引賣渡ヲ受ケ得ル場合	大正十二年三月二十三日	大正十一年(札)一、八九三號	七一九頁		

電信法違反詐欺被告事件	電信爲替證書ノ性質、電信法第三十三條ノ虛偽通信ノ罪ト刑法第二百四十三條ノ詐欺罪トノ關係	大正十二年四月五日	大正十二年(九)三二二號	二二一頁
詐欺被告事件	電話使用權ニ重擔保ニヨル詐欺罪成立ノ工事ノ監督	大正十二年四月七日	大正十二年(九)二四八號	五四〇頁
收賄贈賄被告事件	逓信局技手ノ職務ト逓信部内共濟組合ノ工事ノ監督	大正十二年七月二十六日	十二年(九)八〇八號	八二一頁
營利誘拐電信法違反被告事件	電信法第三十三條第一項ノ意義	大正十三年四月十九日	大正十三年(九)一一六號	一八九頁
業務上橫領私文書偽造行使被告事件	郵便物カ宛名外ノ郵便局ニ到達シタル場合ト業務上ノ橫領	大正十三年六月二十日	大正十三年(九)五六九號	六七六頁
大正十四年				
詐欺背任被告事件	舊規則ニ依リ至急開通シタル電話ノ加入名義變更豫約書類ト詐欺罪ノ目的	大正十四年六月四日	(九)五五九號	五四三頁
大正十五年				
無線電信法違反被告事件	聽取無線電話ノ許可ナキ施設又ハ使用ト無線電信法ノ罰則ノ適用	大正十五年三月四日	大正十五年(九)六號	五四七頁
電信法違反被告事件	電信法第三十三條第二項ニ所謂電報ノ意義	大正十五年三月二十日	大正十五年(九)一〇三號	二二五頁
公文書偽造行使詐欺未遂被告事件	郵便貯金通帳ノ偽造	大正十五年五月十三日	大正十五年(九)四五六號	六七八頁

逓信省徽章通信日附印及郵便切手類模造取締規則違反被告事件	通信日附印ニ紛ハシキ印影	大正十五年十月十三日	大正十五年(九)一三九三號	七六三頁
昭和二年				
業務上橫領被告事件	通信事務員ノ受領シタル郵便貯金ト業務上占有	昭和二年二月十六日	大正十五年(九)一、九四六號	六八一頁
詐欺被告事件	郵便振替貯金口座ニ金員ヲ拂込マシメタル場合ト詐欺罪ノ成立	昭和三年三月十五日	大正十五年(九)九〇五號	六八六頁
公文書變造行使詐欺被告事件	郵便貯金通帳ノ偽造	昭和三年九月九日	昭和二年(九)九三二號	六九四頁
昭和三年				
公文書偽造行使教唆詐欺被告事件	郵便局日附印	昭和三年十月九日	昭和三年(九)一、二一九號	七五五頁
昭和四年				
郵便法違反被告事件	番地ノ記載ナキ郵便物ノ配達	昭和四年二月十五日	昭和三年(九)一、八〇九號	四九頁
印紙税法違反被告事件	集金郵便ニ於ケル現金受領證書ト印紙税法違反、印紙税法違反行爲ト明治四十四年十月二十五日付通牒通業第六三二八號	昭和四年三月五日	昭和三年(九)一、八四六號	五三頁
昭和五年				
脅迫被告事件	郵送ニ係ル書狀ノ所有者	昭和五年三月二十日	(九)一二五號	六五頁
詐欺附帶私訴事件及電信法違反詐欺被告事件	欺罔恐喝ノ兩手段ヲ併用セシ行爲ノ擬律、自己ニ宛テタル虛偽ノ電報ト電信法第三十三條一項	昭和五年五月十七日	(九)一、三一三號	二二七頁

147
530

